

# 市内遺跡調査報告書

## 第 14 集

2023

茨城県石岡市教育委員会



## 例 言

1. 本書は石岡市が令和3年度に行った試掘調査および令和2年度に行った工事立会いに関する報告書である。
2. 調査は石岡市教育委員会が主体となって実施した。
3. 現地調査は小杉山大輔・谷仲俊雄・竹内智晴・金子悠人が担当した。また、調査・整理の参加者は、下記の通りである。

岡田正夫 北山敏道 酒井 洋 牧田保身  
大野幸枝 木村友子 鈴木真紀子 富田道代 長谷川則子

なお、遺構・遺物の実測・トレースは金子・木村・長谷川が、採拓は大野・木村・鈴木・富田・長谷川が行った。

4. 本書の執筆は、Ⅰ・Ⅱを金子、Ⅲを谷仲が行った。編集は金子が行った。
5. 調査に関する遺物・図面・写真等の資料はすべて石岡市教育委員会で保管している。
6. 現地調査及び報告書刊行に当たっては下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。ここに記して、感謝申し上げます次第である。(敬称略・五十音順)

小玉秀成 堀部 猛 上高津貝塚ふるさと歴史の広場

7. 事務局は下記の通りである。

岩田利美(教育長)、吉澤房江(教育部長)、柴田 健(次長)、松川祥丈(文化振興課長)、小杉山大輔(文化振興課課長補佐)、谷仲俊雄・藤岡 毅(文化振興課係長)、金澤史典・渡辺幸恵・竹内智晴・白谷 徹・中村光宏・中村菜摘・金子悠人(課員)

## 凡 例

1. 本書使用の方位は座標北である。
2. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器1/3、平瓦・丸瓦1/6を基本とした。  
なお、それ以外の縮尺の場合は、その都度、実測図に縮尺を明記した。

# 目 次

例 言	32	木間塚遺跡	23
凡 例	33	石川古墳群	23
目 次	34	木間塚遺跡	24
I 調査の概要	35	須釜堀内遺跡	24
1 調査の概要	1	上曾(未周知)	24
2 試掘調査の方法	1	小端(未周知)	24
II 試掘調査(令和3年度)	38	尼寺ヶ原遺跡	25
1 高根遺跡	4	39 木間塚遺跡	25
2 木間塚遺跡	4	40 国分遺跡	25
3 瓦谷(未周知)	5	41 鹿の子遺跡	25
4 東ノ辻遺跡	5	42 大塚遺跡	26
5 木間塚遺跡	5	43 東ノ辻遺跡	26
6 大増下根遺跡(新発見)	5	44 井関後遺跡	26
7 宇治会(未周知)	7	45 鹿の子遺跡	28
8 鹿の子遺跡	8	46 大増下根遺跡	28
9 税所屋敷遺跡	8	47 大塚和内遺跡	31
10 東石岡四丁目(未周知)	9	48 大増下根遺跡	33
11 府中城跡	9	49 大塚(未周知)	39
12 清水頭遺跡	10	50 東ノ辻遺跡	40
13 鹿の子遺跡	11	51 尼寺ヶ原遺跡	40
14 尼寺ヶ原遺跡	11	52 田崎遺跡	40
15 尼寺ヶ原遺跡	12	53 尼寺ヶ原遺跡	40
16 茨城三丁目(未周知)	12	54 北府中(未周知)	40
17 鹿の子遺跡	13	55 鹿の子遺跡	40
18 山王台廃寺跡	13	56 鹿の子遺跡	41
19 府中城跡	14	57 関取遺跡	41
20 鯨岡(未周知)	14	58 木間塚遺跡	41
21 小倉(未周知)	14	59 宮部遺跡	42
22 大塚遺跡	14	60 北府中(未周知)	43
23 木間塚遺跡(範囲変更)	15	61 大塚遺跡	43
24 尼寺ヶ原遺跡	16	62 東ノ辻遺跡	43
25 尼寺ヶ原遺跡	17	63 三村(未周知)	45
26 尼寺ヶ原遺跡	17	64 鹿の子遺跡	45
27 鹿の子遺跡	22	65 税所屋敷遺跡	45
28 木間塚遺跡	22	66 舟塚山古墳群	45
29 東ノ辻遺跡	22	67 柴間(未周知)	46
30 尼寺ヶ原遺跡	22	III 工事立会い(令和2年度)	
31 西平遺跡	22	1 中島遺跡(第3次)	47

# I 調査の概要

## 1 調査の概要

試掘調査は基本的には遺跡の範囲内を行うが、範囲外であっても現地踏査の結果、地形等から遺跡の存在する可能性があるとして判断した場合、または、開発面積が広大である場合には範囲外であっても試掘調査を行った。また、現地踏査を行った結果、アスファルトなどで覆われていて遺跡の現状が把握しきれなかったものに対しては、試掘調査を必ずしも行わず、工事立会いを行ったものもある。

## 2 試掘調査の方法

試掘調査は開発予定地内に数mの大きさのトレンチを設定し、重機（バックホー）及び人力により、地山上面まで掘り下げ、遺構の有無を確認した。遺構の有無が判断が困難な場合は、サブトレンチを設定するなど一部精査を行い、遺構の確認をおこなった。また、遺跡の時期や性格を判断するため、遺構であっても、あえてサブトレンチを設定し、掘り下げた場合もある。遺物は表面採集、トレンチ覆土中出土、遺構出土にわけて取り上げた。

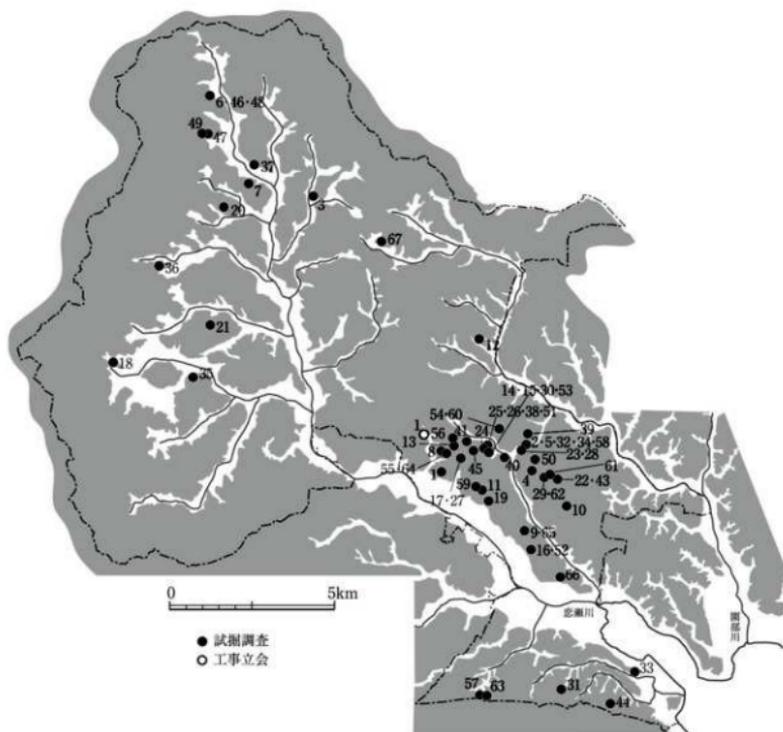


図1 本書所収の遺跡位置図



図2 常陸国衙跡・常陸国分寺跡・常陸国分尼寺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

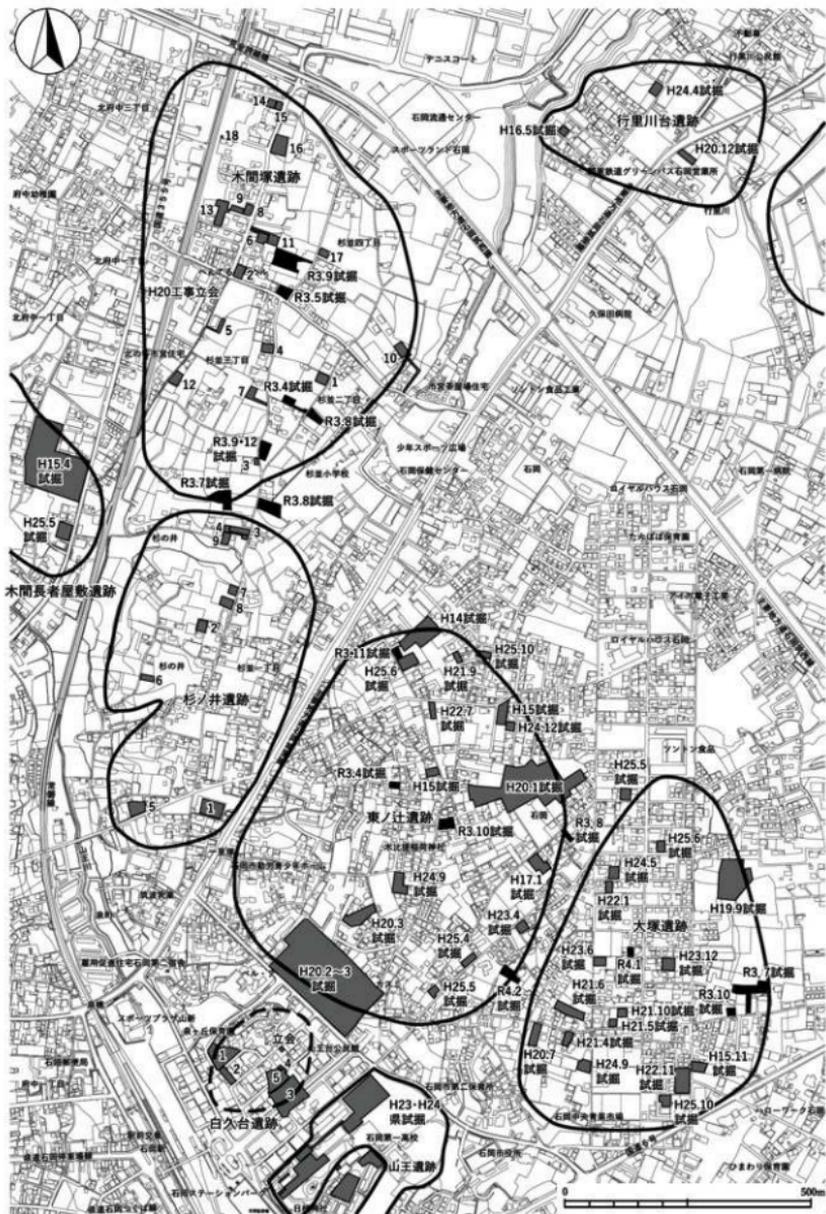


図3 木間塚遺跡・杉ノ井遺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

## II 試掘調査 (令和3年度)

### 1 高根遺跡

①所在地 石岡市染谷 2250 番 1 ②調査面積 1519 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 4 月 8 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 6ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、時期不明の土坑 1 基 (SK01) を確認した。遺構確認面までの深さは 0.6 ~ 0.9m (北側で 0.6m、南側で 0.9m)。SK01 は、T-3 に確認した。深さ 0.05m 程度。遺物の出土はない。

⑦遺物 表面採集した土器を掲載する。1 ~ 7 は縄文土器。1 の浮島 3 式など縄文時代前期を中心とした遺物が確認される。8 ~ 11 は弥生土器。10 の足洗式など弥生時代中期から後期を中心とした土器が散見される。

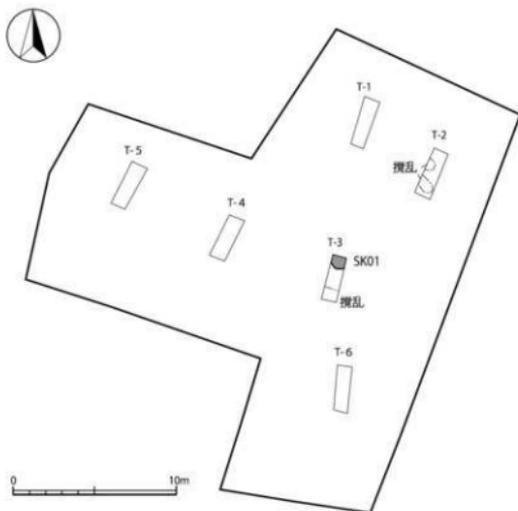


図1 高根遺跡 全体図 (S=1/300)

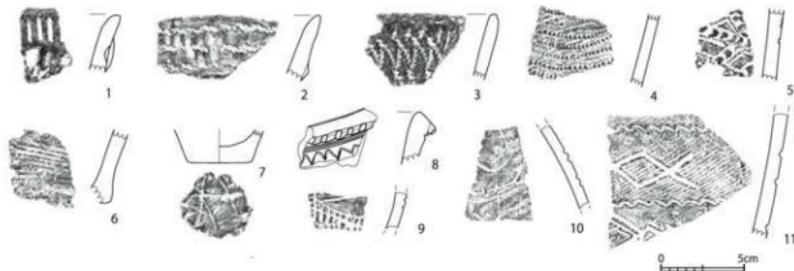


図2 高根遺跡 表面採集遺物 (S=1/3)

### 2 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並二丁目 12556 番 5、同番 14 ②調査面積 470 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 4 月 15 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.5m。

### 3 瓦谷（未周知）

①所在地 石岡市瓦谷 1221 番 1、1222 番 2 ②調査面積 4433 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 4 月 22 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 19ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2～1.15m（東側 0.2～0.4m、西側 0.9～1.15m）。



図3 瓦谷 調査地点位置図 (S=1/2,500)

### 4 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡 2333 番 ②調査面積 277.6 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 5 月 7 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2～0.4m。



写真1 瓦谷 調査地点全景（南東から）

### 5 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並四丁目 12973 番 19、同番 20 ②調査面積 561.13 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 5 月 7 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4～0.7m。⑦遺物 表面採集した土器を掲載する。1・2ともに中世の土器である。



図4 木間塚遺跡  
表面採集土器 (S=1/3)

### 6 大増下根遺跡（新発見）

①所在地 石岡市大増 594 番 ②調査面積 3190 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 5 月 18 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 6ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文時代、中世の遺物包含層を確認した。遺構確認面までの深さは 0.8m。表土から 0.8～1m で湧水が認められる。遺物包含層は T-2、T-4 で確認した。深さは 0.3m 以

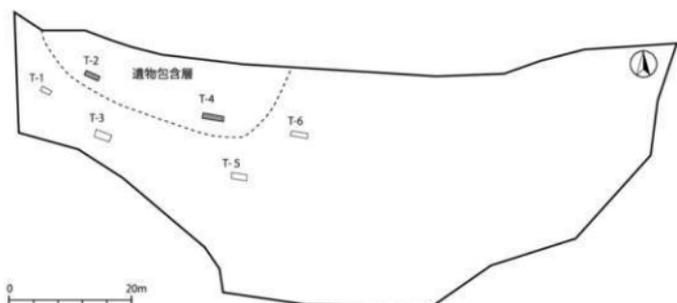


図5 大増下根遺跡 全体図 (S=1/800)

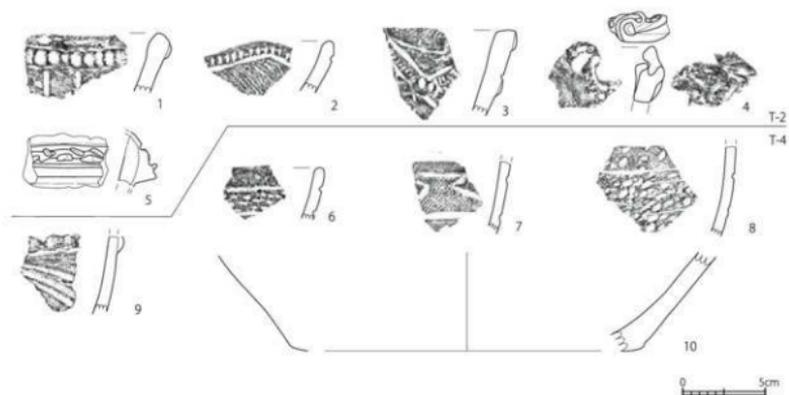


図6 大増下根遺跡 出土遺物 (S=1/3)



写真2 大増下根遺跡 T-2 (西から)



写真3 大増下根遺跡 T-4 (西から)

上。湧水により、遺物包含層の底及び地山面は確認できなかった。この結果を受け、令和3年5月21日付で「大増下根遺跡」として「遺跡発見の通知」を茨城県教育委員会に提出した。⑦遺物 1～10は全て遺物包含層

が確認された T-2、T-4 から出土した。1～9 は縄文土器である。加曾利 B 式～大洞式の土器が中心で後期後葉から晩期を中心とした遺物包含層と思われる。10 は常滑焼で中世の土器である。

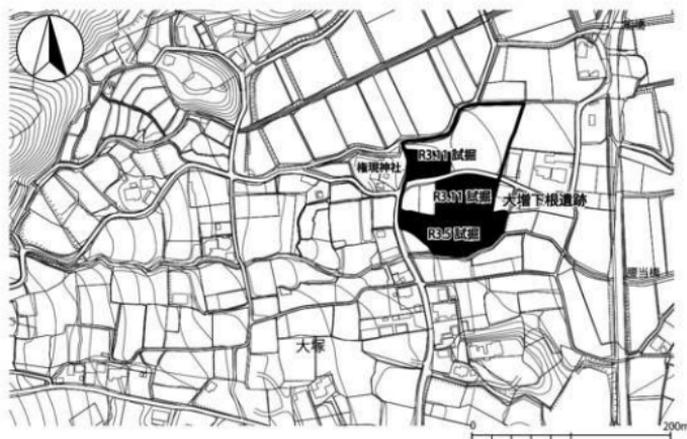


図7 大増下根遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

## 7 宇治会 (未周知)

- ①所在地 石岡市宇治会 2104 番、2105 番 2、2106 番 1 ②調査面積 2265 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 5 月 20 日  
 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 7ヶ所の試

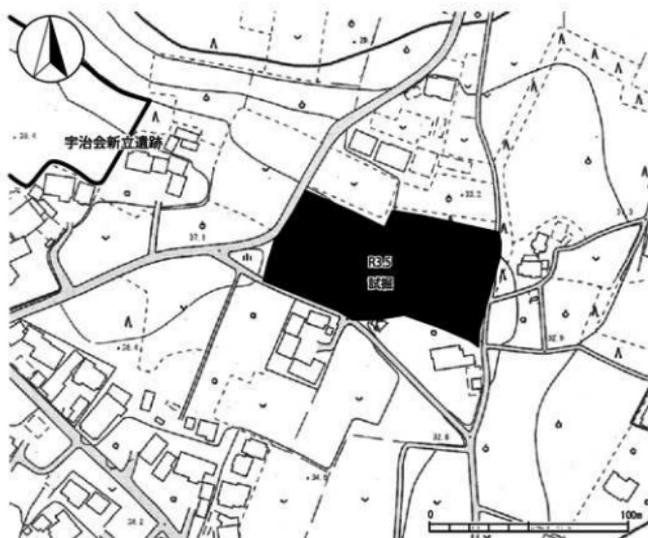


図8 宇治会  
 調査地点位置図  
 (S=1/2,500)

掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、溝2条（SD01、SD02）を確認した。遺構確認面までの深さは0.3～1.2m。SD01はT-1で確認され、幅0.6～0.8m、深さ0.3m。SD02はT-7で確認され、幅0.4～0.5m、深さ0.3m。SD01・SD02とも遺物の出土はなく、旧表土を掘り込むため比較的新しいと思われるが、時期は不明である。

## 8 鹿の子遺跡

- ①所在地 石岡市鹿の子二丁目2541番2 ②調査面積 669㎡ ③調査日 令和3年5月25日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.8m。



写真4 鹿の子遺跡 調査風景（西から）

## 9 税所屋敷遺跡（範囲変更）

- ①所在地 石岡市茨城一丁目5391番1の一部、同番6、5392番2 ②調査面積 529.94㎡ ③調査日 令和3年5月27日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に12

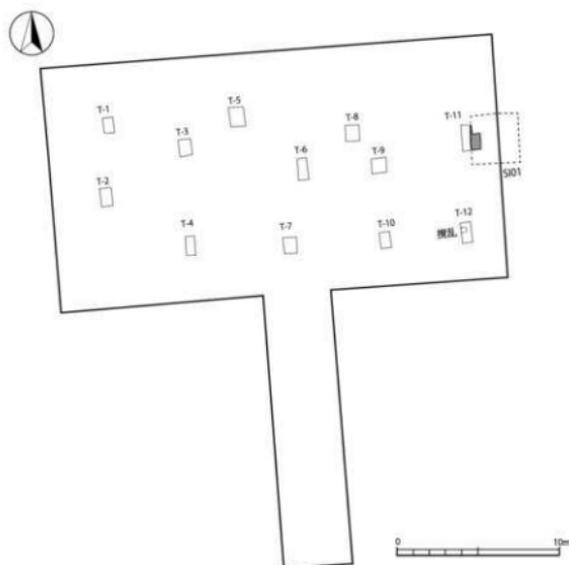


図9 税所屋敷遺跡 全体図  
(S=1/300)

ヶ所の試掘トレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の東側で竪穴建物跡1棟(SI01)を確認した。遺構確認面までの深さは0.5m～0.95m。SI01は、T-11にて確認した。奈良・平安時代の竪穴建物跡にみられる貼床と類似した硬化面が確認されたため、竪穴建物跡と判断した。上部および硬化面の一部は攪乱により削平されており、遺構の時期は不明である。遺構に伴う遺物も確認されていない。⑦遺物 遺構に伴わない表土から出土した。1～4は縄文土器である。加曽利E式を主体とした縄文時代中期の遺物が散見される。5は奈良・平安時代の土師器底部である。6は中世から近世の土器と思われるが詳細は不明である。

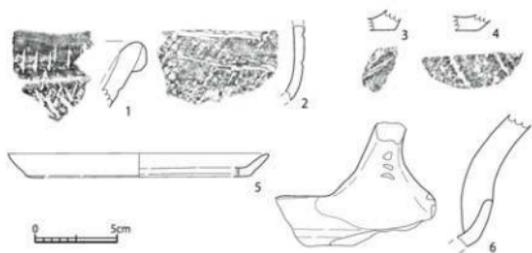


図10 税所屋敷遺跡 出土遺物(S=1/3)

## 10 東石岡四丁目 (未周知)

①所在地 石岡市東石岡四丁目3957番122、3963番2、同番3、同番4 ②調査面積 2997.88㎡ ③調査日 令和3年6月1日 ④調査原因 老人福祉施設建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.6m。



写真5 東石岡四丁目 調査風景(南から)



写真6 府中城跡 調査風景(南西から)

## 11 府中城跡

①所在地 石岡市総社一丁目258番2 ②調査面積 477.09㎡ ③調査日 令和3年6月7日 ④調査原因 倉庫建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを人力ならびに重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.8m。

## 12 清水頭遺跡

①所在地 石岡市半ノ木11298番1 ②調査面積 867㎡ ③調査日 令和3年6月8日 ④調査原因 太陽光施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代と思われる土坑1基(SK01)を確認した。遺構確認面までの深さは0.2m～0.6m。SK01はT-9にて確認した。奈良・平安時代の土師器1点と複数の鉄滓が出土し、

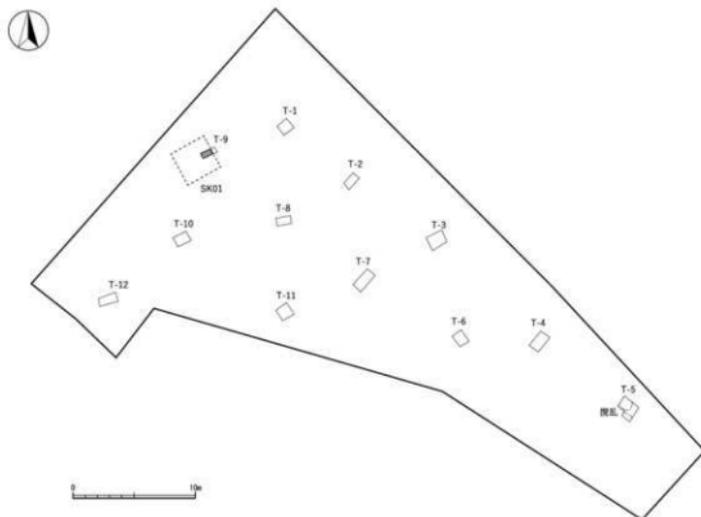


図 11 清水頭遺跡 全体図 (S=1/400)



写真 7 清水頭遺跡 T-9 (東から)



写真 8 清水頭遺跡 SK01 セクション (北から)



図 12 清水頭遺跡 出土遺物 (S=1/3)

攪乱はあるものの明確な硬化面がみられた。硬化面までは地表から0.6m。⑦遺物 遺構に伴う遺物は奈良・平安時代のものであったが、その他の土器も出土している。1・2はともに中世の土器。1は旧表土、2はSK01の覆土から確認された。

### 13 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市若松二丁目9238番8、9022番4 ②調査面積 242.11㎡ ③調査日 令和3年6月9日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.6～0.7m。

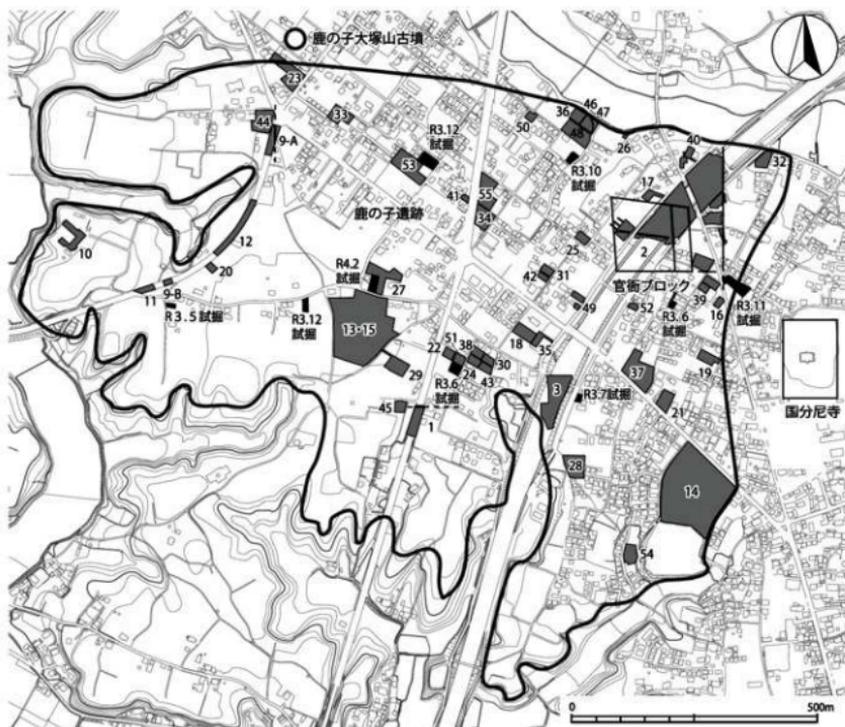


図13 鹿の子遺跡 調査地点位置図 (S=1/10,000)

### 14 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目8641番13 ②調査面積 416.19㎡ ③調査日 令和3年6月11日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.6m。

## 15 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目8634番1 ②調査面積 977㎡ ③調査日 令和3年6月15日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に6ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.8m。



写真9 尼寺ヶ原遺跡(14) 調査地点全景(西から)

## 16 茨城三丁目(未周知)

①所在地 石岡市茨城三丁目14340番1 ②調査面積 656.93㎡ ③調査日 令和3年6月15日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.6～1.25m。

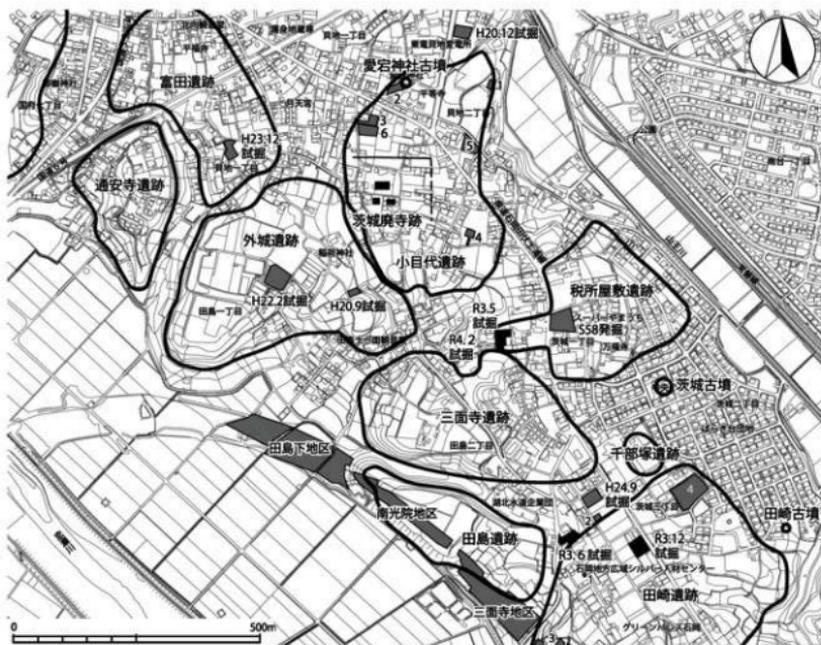


図14 貝地・茨城周辺 調査地点位置図(S=1/10,000)

## 17 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子一丁目 9358 番 1 ②調査面積 443 m<sup>2</sup> ③調査日 令和3年6月17日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.3m。

## 18 山王台廃寺跡

①所在地 石岡市小幡 1603 番 ②調査面積 63 m<sup>2</sup> ③調査日 令和3年6月22日 ④調査原因 進入路設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に2ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.6～0.7m。⑦遺物 開発地周辺で表面採集された瓦・土器を掲載する。1は丸瓦。2は平瓦。3は中世から近世と考えられる。



図14 山王台廃寺跡 調査地点位置図 (S=1/2,500)

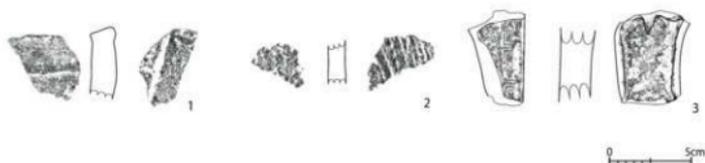
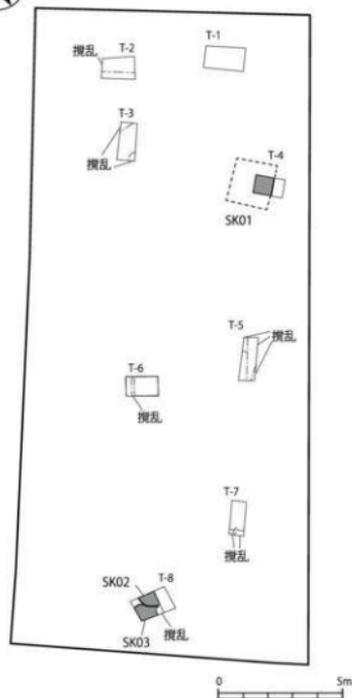


図15 山王台廃寺跡 表面採集遺物 (S=1/3)

## 19 府中城跡

①所在地 総社一丁目421番21 ②調査面積 319.19㎡ ③調査日 令和3年6月24日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要  
開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、時期不明の土坑3基(SK01～SK03)を確認した。遺構確認面までの深さは、0.5m～0.8m。SK01はT-4にて確認した。深さは0.1m程度。遺物の出土はない。SK02およびSK03はT-8にて確認した。遺構検出時に微量の須恵器が確認されているため、奈良・平安時代の遺構の可能性があり、土坑とした。⑦遺物 いずれも表土から出土した。1は土師器の高台付杯。T-1出土。2は須恵器蓋。3は中世から近世の土器。いずれもT-6出土。4は中世から近世の陶器。T-5出土。奈良・平安時代から中世の遺物が目立つ。



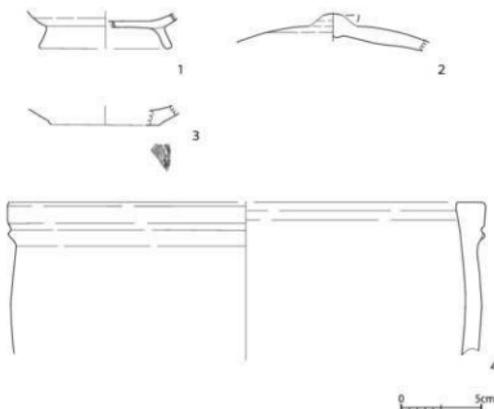
## 20 鯨岡 (未周知)

①所在地 石岡市鯨岡855番1の一部 ②調査面積 35㎡ ③調査日 令和3年7月6日 ④調査原因 防火水槽設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要  
開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.5m。

## 21 小倉 (未周知)

①所在地 石岡市小倉610番1 ②調査面積 2085㎡ ③調査日 令和3年7月7日 ④調査原因 太陽光施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要  
開発区域内に3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.25～0.4m。

図16 府中城跡 全体図 (S=1/200)



## 22 大塚遺跡

①所在地 石岡市石岡2822番1、同番14、2836番 ②調査面積 1516.83㎡ ③調査日 令和3年7月8日 ④調査原因 建売住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、

図17 府中城跡 出土遺物 (S=1/3)

金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.7m。

### 23 木間塚遺跡（範囲変更）

①所在地 石岡市杉並三丁目 12593 番 ②調査面積 1124 m<sup>2</sup> ③調査日 令和3年7月13日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に19ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代と思われる竪穴建物跡1棟（SI01）を確認

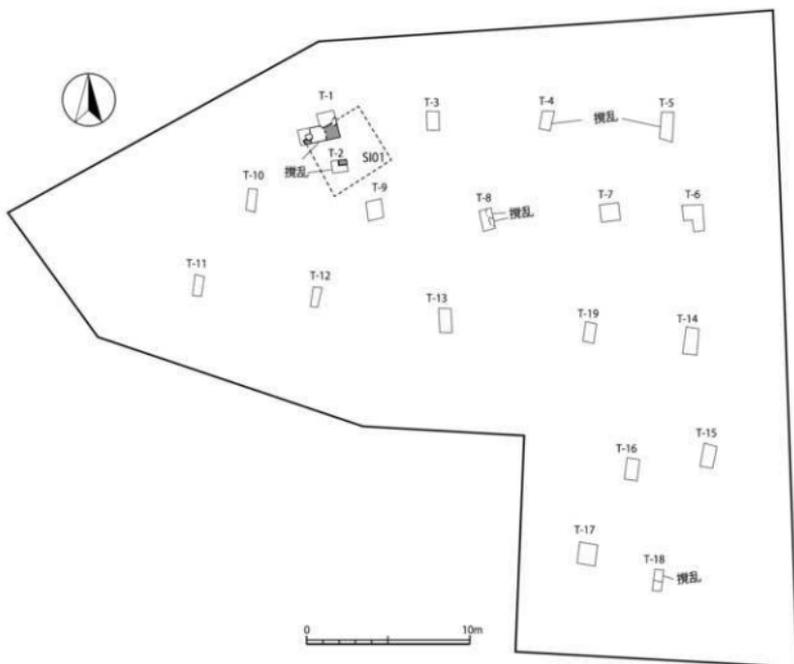


図 18 木間塚遺跡 全体図 (S=1/300)



図 19 木間塚遺跡 出土遺物 (S=1/3・6)

した。遺構確認面までの深さは0.25～0.6m。SI01はT-1およびT-2で確認した。東西長約4mの方形で、南側視乱により南北幅は確認できなかった。北側で灰褐色砂質土や比熱を受けた瓦が出土しており、カマドの可能性があると、地表から0.85mほどで硬化面が確認されたことから、竪穴建物跡と判断した。表土および遺構確認面から瓦・土師器が検出されている。⑦遺物 1はSI01の覆土(T-2)、2、3はSI01のカマド部分(T-1)から出土した。1は須恵器底部。2は内黒の土師器。3は丸瓦前端である。

## 24 尼ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目8833番2 ②調査面積 316.75㎡ ③調査日 令和3年7月16日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の溝1条(SD01)を確認した。遺構確認面までの深さは、0.95～1.6m。SD01はT-3およびT-4で確認した。南側は60cmほど斜めに掘りこまれ、床はほぼ平面となる。上端29m以上、下端1.4m以上の逆台形になるものと推測される。常陸国分尼寺の北側区画に関連する溝の可能性が推測できる。⑦遺物 いずれもT-3のSD01の覆土で出土した。1は内黒の土師器で、底部外面に何らかの文字が墨書されている。2は須恵器口縁部。3は丸瓦前端部。4は平瓦小片。

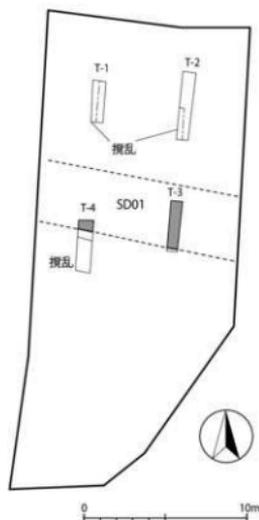


図20 尼ヶ原遺跡(24) 全体図(S=1/300)

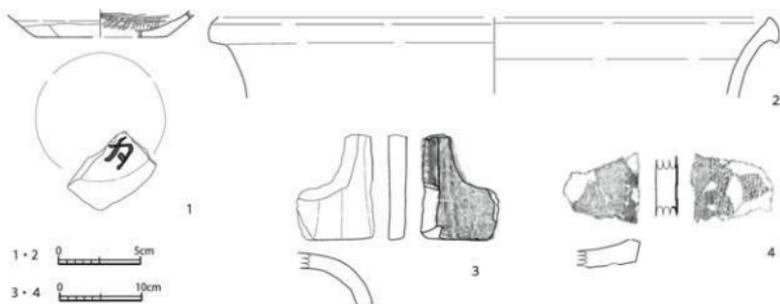


図21 尼ヶ原遺跡(24) 出土遺物(S=1/3・6)

## 25 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目8673番1 ②調査面積 373㎡ ③調査日 令和3年7月21日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に6ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、いずれのトレンチも50～70cmほどで湧水を確認した。遺物等も検出されないことから、明確な遺構は存在しないものと思われる。

## 26 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目8578番1、同番3他 ②調査面積 1345㎡ ③調査日 令和3年7月28日、29日 ④調査原因 建売住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に33ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代と思われる堅穴建物跡7棟（SI01～07）、土坑1基（SK01）を確認した。遺構確認面までの深さは0.3～0.5m。SI01は、50cmほどで貼床と思われる明確な硬化面を確認した。ほかの遺構（SI02～07）に関しても南北主軸であり、方形4m程度の遺構であると考えられることから、堅穴建物跡と判断した。また、SI04・05は、赤色焼土が存在し、カマドを伴う堅穴建物跡と考えられる。SI04からは、カマド部材に使用されたと考えられる被熱をうけた瓦や須恵器高台付杯が出土している。SI05を掘り込むようにしてSK01が確認されている。SK01の覆土上層からは土師器の杯が正位で3枚重なった状態で確認され、さらにその下層からは埴や瓦片が折り重なった状態で検出された。3つの環のう

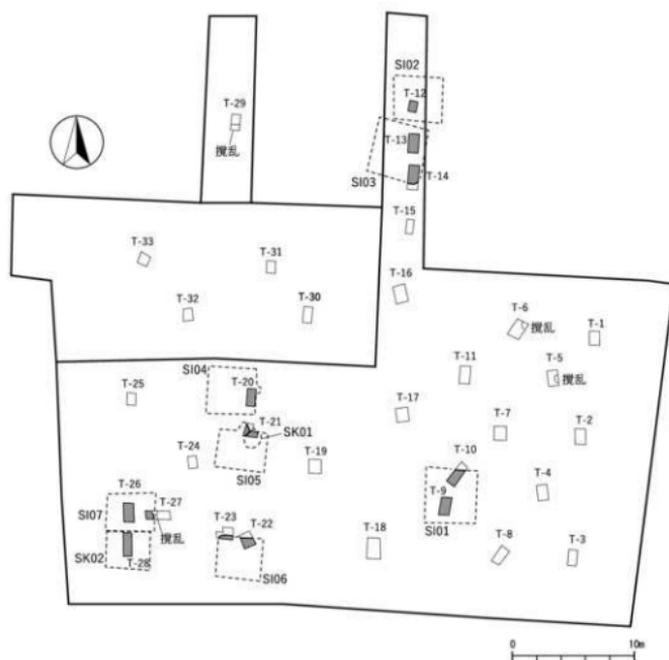


図22 尼寺ヶ原遺跡(26) 全体図(S=1/400)



写真10 尼ヶヶ原遺跡 T-9 SI01 床面 (北から)

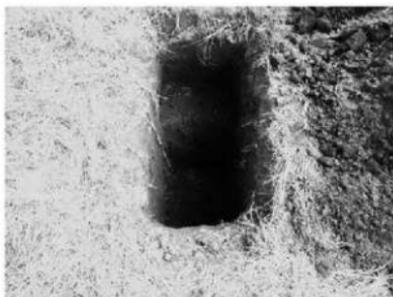


写真11 尼ヶヶ原遺跡 T-12 SI02 (北から)



写真12 尼ヶヶ原遺跡 T-20 SI04 (北から)



写真13 尼ヶヶ原遺跡 T-21 SI05 (北から)



写真14 尼ヶヶ原遺跡 T-21 SK01 遺物出土  
状況 (北から)



写真15 尼ヶヶ原遺跡 T-27 SI07 (東から)

ち最下層の坏は「財司」と書かれた9世紀前半の墨書土器である。この「財司」については、国分尼寺の資材の管理または資材帳の検校機関の存在が仮定され、国分尼寺伽藍地東側での具体的な空間復元に近づく可能性がある資料であるとの見解もある<sup>1)</sup>。②遺物 いずれの竪穴建物跡からも奈良・平安時代の遺物が確認されている。1・2はT-9のSI01覆土から出土した。1は内黒の土師器底部。2は土師器甕口縁部。3・4はT-12のSI02から出土した。3は須恵器坏。4は須恵器高台坏。5～8はT-13およびT-20のSI03覆土から出土した。5は須恵器甕胴部。6は瓦小片。7は須恵器の高台付坏。底径9.8cm。8は平瓦狭端部。9～12はSI04覆土から出土し



図 23 尼ヶヶ原遺跡 出土遺物 1 (S=1/3・1/6)

た。9 は内面硯の脚部小片。上部の一部に端部が残り孔が推測される。10 は平瓦小片。11 は平瓦広端部。12 は平瓦。全体の 80% ほどが残存すると思われる。長縄叩き後ナデ整形される。13～21 は T-21 の SK01 から出土した。13～17 は覆土上層から出土した。13 は土師器杯。底径 7cm。口縁は 25% 残存、底部は完形。14～16 は重ねるようにして検出されている。14 が一番上、15 が真ん中、16 が一番下。いずれも土師器杯。14 は口縁部 30% 残存。底部完形。底径 7.5cm。15 は口縁部 50% 残存。底部完形。底径 7.5cm。16 はほぼ完形。口径 13.6cm、底径 8cm。「財司」との墨書が記されている。17 は丸瓦。18 は覆土中層から出土した場である。全長 29.2cm、幅 14.7cm でほぼ完形である。全長と幅の関係は 2:1 の比率になっている。19～21 は覆土下層から出土した。19 は土師器底部。20 は丸瓦後

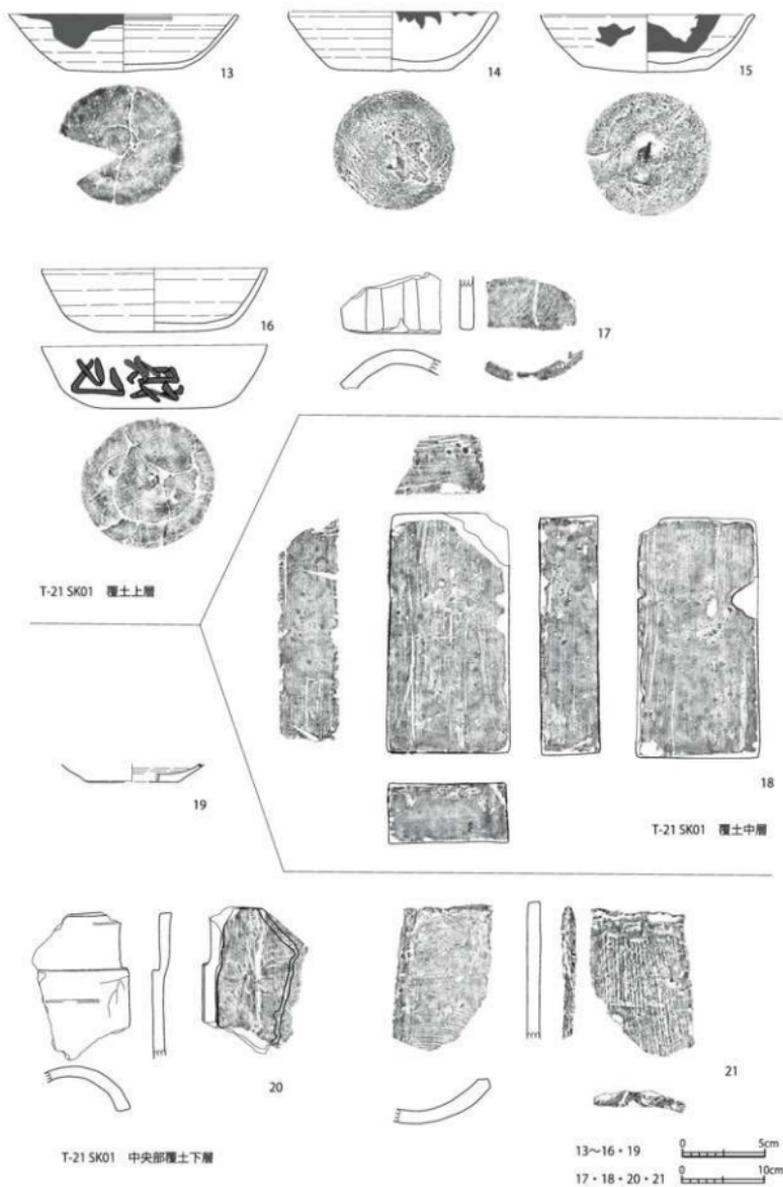


図 24 尼寺ヶ原遺跡 出土遺物 2 (S=1/3・1/6)

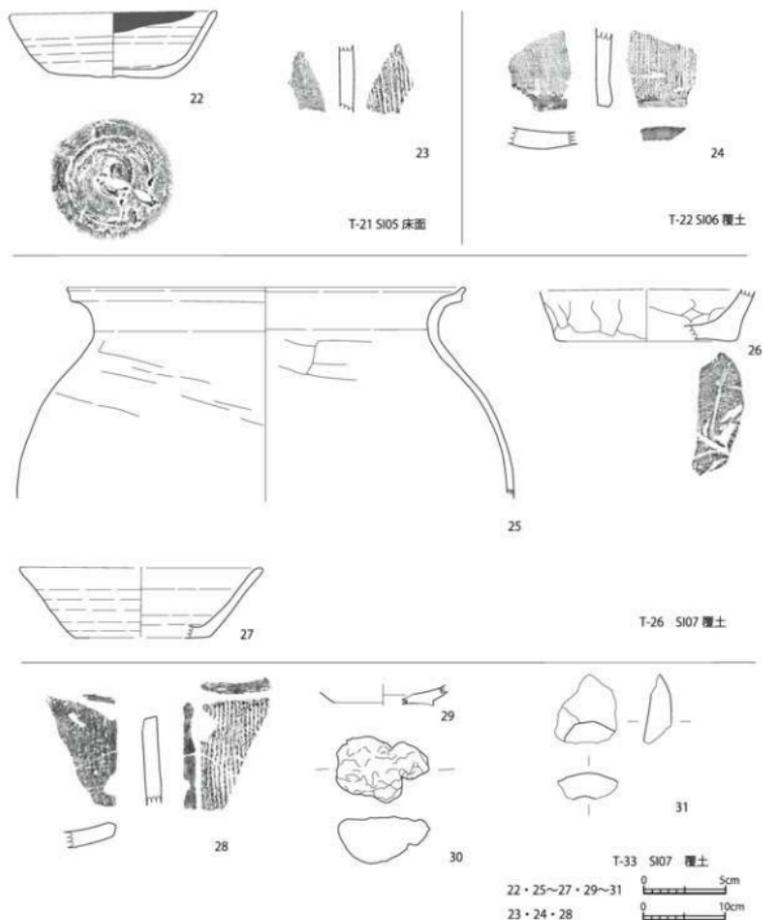


図 25 尼寺ヶ原遺跡 出土遺物 3 (S=1/3・1/6)

端部。21は平瓦狭端部。22、23はT-21のS105床面から出土した。22は土師器杯。口径12.6cm、底径7.6cmのはほぼ完形。23は平瓦小片。24はT-22のS106覆土から出土した平瓦である。25～27はT-26のS107覆土から出土した。25は土師器甕。26は土師器底部。底外面に主脈・側脈を残す広葉樹葉の圧痕を残す。27は須恵器杯。胴下部にややすを残す。28～31はS107で出土した。28は平瓦小片。29は土師器高台付杯。30は鉄滓。31は羽口の小片と思われる。

## 27 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市若松二丁目 9311 番 4 ②調査面積 178 ㎡ ③調査日 令和 3 年 7 月 29 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 5ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.9～1.05m。

## 28 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並一丁目 12916 番 1 ②調査面積 1145 ㎡ ③調査日 令和 3 年 8 月 3 日 ④調査原因 資材置場 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 4ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.65～0.8m

## 29 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡 13951 番 2 ②調査面積 272 ㎡ ③調査日 令和 3 年 8 月 4 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ルーム層まで乱荒されており、明確な地山は確認できなかった。



写真 16 東ノ辻遺跡 調査地点全景（北から）



写真 17 尼ヶヶ原遺跡 (30) 調査地点全景  
(東から)

## 30 尼ヶヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目 8625 番 4、同番 6、8627 番 6 ②調査面積 337 ㎡ ③調査日 令和 3 年 8 月 6 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 1.0m。

## 31 西平遺跡

①所在地 石岡市石川 2148 番、2150 番 2 ②調査面積 9372 ㎡ ③調査日 令和 3 年 8 月 10 日 ④調査原因 資材置場 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 6ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4～0.7m。

### 32 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並二丁目12921番29 ②調査面積 461㎡ ③調査日 令和3年8月18日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.9～1.1m。

### 33 石川古墳群

①所在地 石岡市石川601番 ②調査面積 50㎡ ③調査日 令和3年8月20日 ④調査原因 神社再建 ⑤調査担当者 谷仲俊雄、竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に1か所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、石川古墳群1号墳の構築土を確認した。遺構確認面までの深さは0.4m。T-1北側では、遺構確認面から5cmから10cmほどの厚さで暗褐色土と灰色粘土混じりの明褐色土を交互に積み上げた土層が5層確認でき、地表から70cmほどより下層になると灰色粘土混じりの明褐色土の層が20cm以上の厚さで確認された。また、トレンチ北西コーナーでは土層が西方向に向かい斜めに落ちていく様子が確認された。埋葬施設の設置に伴う工法の変化や、周囲に



図 26 石川古墳群  
出土遺物 (S=1/3)

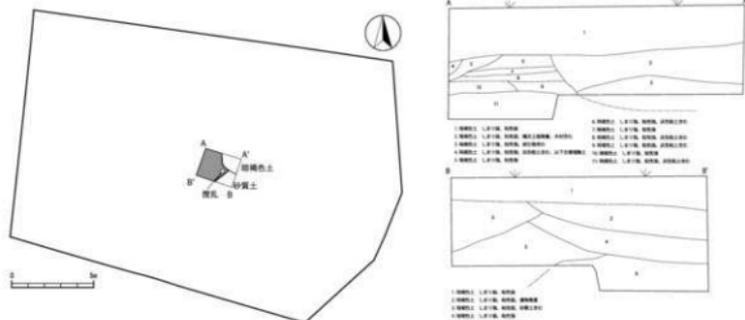


図 27 石川古墳群 全体図・セクション図 (S=1/300・1/40)



写真 18 石川古墳群 T-1 (北から)



写真 19 石川古墳群 T-1 墳丘構築土 (南から)

土手を築いてから内部に土を充填するような古墳の築造方法を取った可能性が考えられる。⑦遺物 表土層から埴輪1点と数点の縄文土器を確認している。1はT-1の表土層から出土した埴輪の小片である。

### 34 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並二丁目12570番2 ②調査面積 341.53㎡ ③調査日 令和3年9月1日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.6m。

### 35 須釜堀内遺跡

①所在地 石岡市須釜1355番1 ②調査面積 1077.26㎡ ③調査日 令和3年9月6日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.35～0.6m。⑦遺物 表面採集した遺物を掲載する。1は中世から近世の土器である。周辺はこの時期の遺物が散見される。



図28 須釜堀内遺跡  
表面採集遺物 (S=1/3)



図29 須釜堀内遺跡 調査地点図 (S=1/5,000)

### 36 上曾 (範囲外)

①所在地 石岡市上曾197番1 ②調査面積 452㎡ ③調査日 令和3年9月7日 ④調査原因 事務所建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～1.0m。⑦遺物 表面採集した遺物を掲載する。1は縄文土器。2は土師器と思われる土器片。3は中世から近世の土器。周辺は縄文土器を中心にして幅広い時代の遺物が散見される。

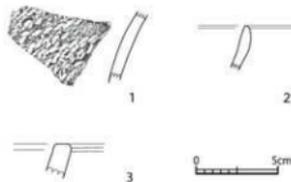


図30 上曾 (範囲外)  
表面採集遺物 (S=1/3)

### 37 小嶋 (範囲外)

①所在地 石岡市小嶋1261番5 ②調査面積 499㎡ ③調査日 令和3年9月10日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.5m。

### 38 尼寺ヶ原遺跡

- ①所在地 石岡市若松三丁目8644番1の一部 ②調査面積 524.17㎡ ③調査日 令和3年9月14日 ④調査原因 駐車場造成 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の堅穴建物跡1棟（SI01）、土坑2基（SK01、02）を確認した。遺構確認面までの深さは0.3～0.4m。SI01は、T-8で確認した。南北長約4m、東西長推定約3mの方形で、カマドを伴うものである。覆土から瓦・土師器が見つかる。SK01・02はT-5・T-6で確認した。SK01は、楕円形または不整形であり、地表から0.75mで鍛冶工房に関連すると考えられる羽口や鉄滓などの遺物を確認した。多量の炭化物を含み、焼土が含まれないことなどから廃棄用の土坑などの可能性が考えられる。SK02はSK01に切られる時期不明土坑である。
- ⑦遺物 土師器、瓦、羽口などが確認されているが、紙面の都合上別稿に譲る。



写真 20 尼寺ヶ原遺跡 (38) 調査風景 (東から)

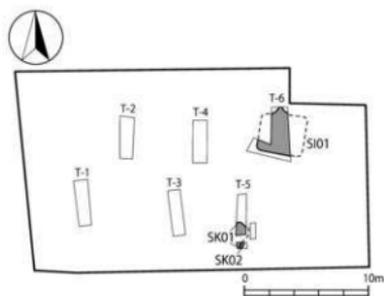


図 31 尼寺ヶ原遺跡 (38) 全体図 (S=1/400)

### 39 木間塚遺跡

- ①所在地 石岡市杉並四丁目12973番8、同番9 ②調査面積 1854㎡ ③調査日 令和3年9月17日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に14ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.5m。

### 40 国分遺跡

- ①所在地 石岡市府中四丁目8395番1、8399番5 ②調査面積 537.5㎡ ③調査日 令和3年9月28日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.4～0.8m。

### 41 鹿の子遺跡

- ①所在地 石岡市鹿の子一丁目9582番2、同番3 ②調査面積 342㎡ ③調査日 令和3年10月5日 ④調査原因 宅地造成 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.2～0.4m。

#### 42 大塚遺跡

①所在地 石岡市石岡 2897 番 5 ②調査面積 272.56 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 10 月 6 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 9 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3 ~ 0.4m。

#### 43 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡 2575 番 2 ②調査面積 656 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 10 月 12 日 ④調査原因 宅地分譲 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 17 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.35 ~ 0.8m。



図 32 井関後遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

#### 44 井関後遺跡

①所在地 石岡市井関 915 番 ②調査面積 726 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 10 月 19 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 9 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文時代の土坑 (SK01) 1 基と性格不明遺構 (SX01) 1 基を確認した。遺構確認面までの深さは 0.4 ~ 1.0m。SK01 および SX01 は、T-1 で確認された。方形の SX01 を円形の SK01 が掘り込んでおり、どちらも床面直上まで縄文土器が出土する。 ⑦遺物

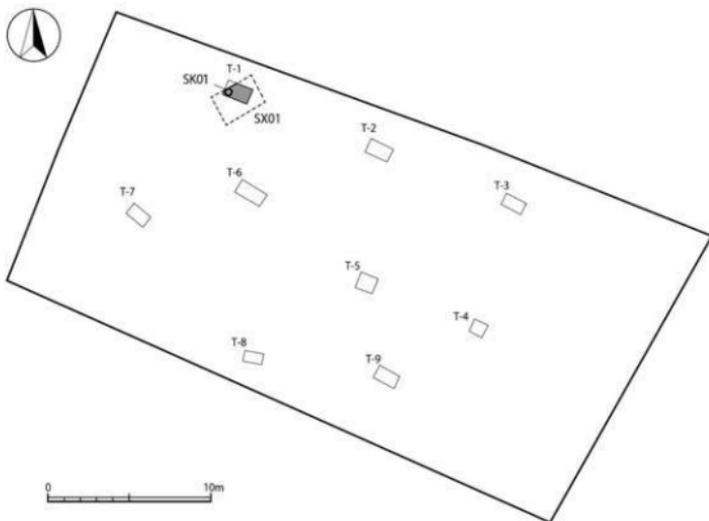


図 33 井関後遺跡 全体図 (S=1/300)

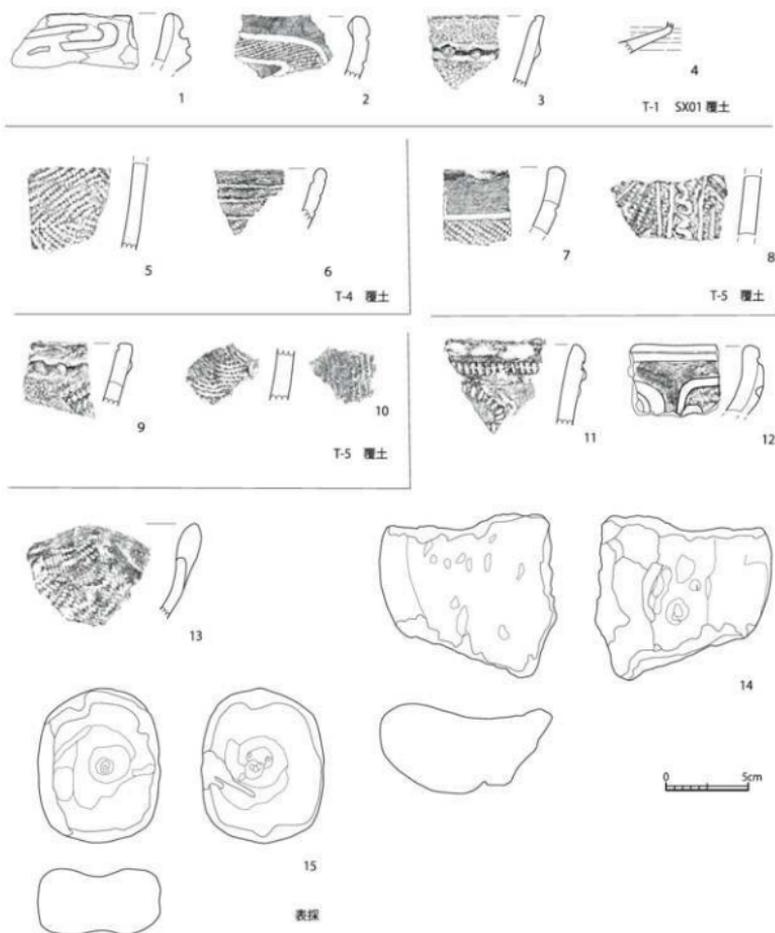


図 34 井間後遺跡 出土遺物 (S=1/3)

1～4はT-1のSX01覆土から出土した。1～3は縄文土器。1は加曾利E2式。棒状工具による沈線が施される。2は称名寺1式。単筋縄文RLを転がし、沈線がひかれる。その後周囲をすり消している。3は堀之内粗製。4は須志器高杯。5・6はT-4覆土、7～10はT-5覆土から出土した。いずれも縄文時代中期中葉から後期におさまる。11～15は表面採集した遺物を掲載する。11～13は出土遺物と同時期の縄文土器。14は多孔石。厚さ4.8cm。15はすり石と思われる。全長9.5cm。

#### 45 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目 8951 番 1、8952 番 1、同番 2 ②調査面積 1125.53 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 1 日 ④調査原因 集合住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 7ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.5～1.0m。

#### 46 大増下根遺跡

①所在地 石岡市大増 587 番 1 ②調査面積 1128 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 2 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 27ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文時代の竪穴建物跡 1 棟 (SI01)、奈良・平安時代の竪穴建物跡 1 棟 (SI02)、縄文時代の可能性のある土坑 2 基 (SK01、SK02) が確認された。遺構確認面までの深さは、0.2～0.4m。SI01 は T-19・T-20 で確認された。約 3m の円形で、縄文時代晩期の土器が多量に出土している。SI02 は T-23 で確認された。約 3m の方形で、カマドの向きは攪乱により確認できなかったが、9 世紀後半と考えられる土師器が出土し、当該期の遺構と判断した。SK01 は T-21 で確認した。円形で、縄文時代後期～晩期の遺物を多量に含む。SK02 は T-27 で確認した。円形で、焼石を含む焼土が検出されている。⑦遺物 1～6 は T-19 の SI01 で確認された縄文土器である。1 は中期中葉。楕円隆線の上にキザミを施す。2 は称名寺式。円形刺突を施し、沈線間を磨り消している。3～5 は加曾利 B3 式。口縁部に刻目文を施したり、矢羽根状の沈線を施す。6 は大洞 C<sub>1</sub> 式。磨消によりモチーフが立体化している。7～12 は T-20 の覆土上層、13～16 は覆土下



図 35 大増下根遺跡 (46) 全体図 (S=1/300)



写真 21 大増下根遺跡 T-20 SI01 (西から)



写真 22 大増下根遺跡 T-21 SK01 (西から)



写真 23 大増下根遺跡 T-23 SI02 (西から)

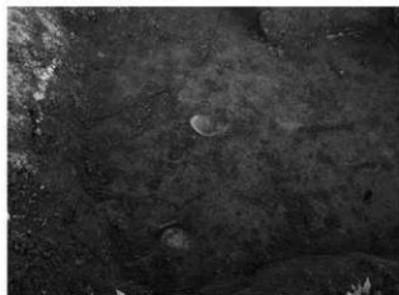


写真 24 大増下根遺跡 T-23 SI02 遺物出土状況 (西から)



写真 25 大増下根遺跡 T-27 SK02 (西から)



写真 26 大増下根遺跡 調査地点全景 (西から)

層からそれぞれ出土した。10を除き縄文時代に属する。7・8は前浦式。沈線間に縄文を充填する。9は刻目文を施し、後期から晩期に属すると思われる。10は時期不明底部。11は石製品、12は削器か。13は安行3C式。沈線間に刺突文が入る。14は大洞C<sub>2</sub>式。磨消縄文がやや平面的である。15・16は縄文時代不明。15は沈線を鋸歯状に施す。16は底部。17～21はT-21表土から出土した縄文土器。17は、称名寺2式。櫛歯状工具による波状垂下沈線を施す。18は堀之内2式。1条の紐線文を横位に付し、その上に8の字状の貼付がされる。19

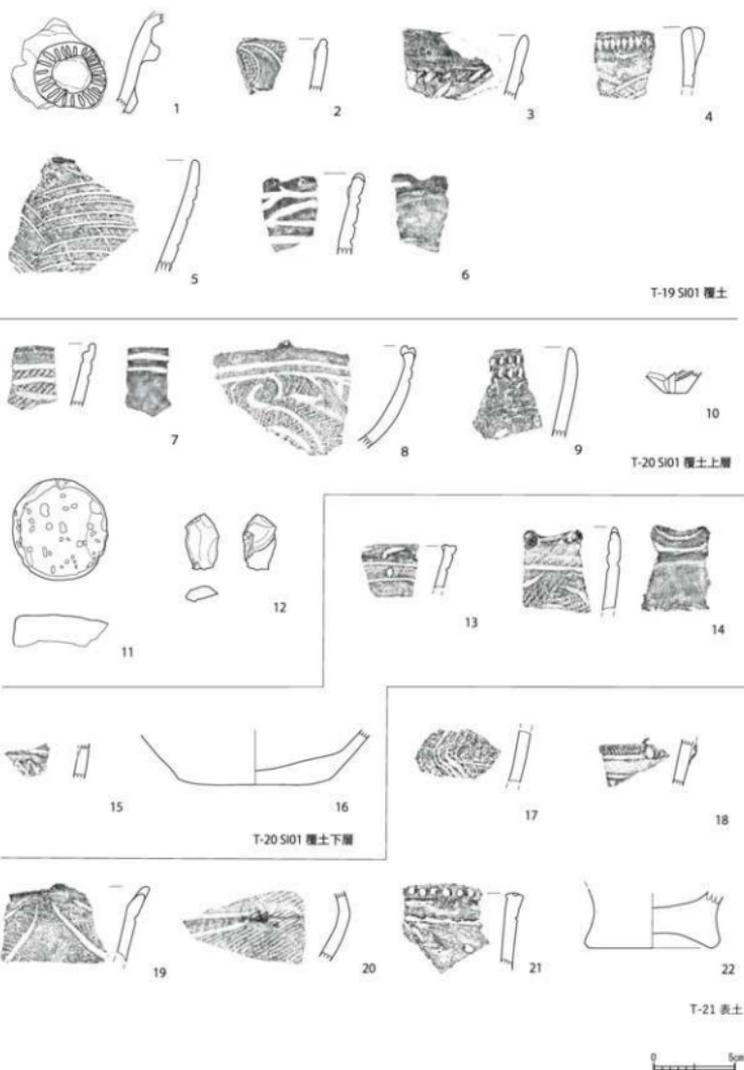


図 36 大増下根遺跡 (46) 出土遺物 1 (S=1/3)

～ 21 は安行 3 式。瘤状文にその特徴がある。22 は時期不明底部。23・24 は T-23 表土から出土した。23 は前浦式、24 は注口土器。25～27 は、T-23 の SI02 から出土した。25 は内黒の土師器で 9 世紀後半。胴部は横ミガキ、底内面は多方向のミガキが施される。底外面は、回転ヘラ削り。口径 13.6cm、底径 6cm。26 は土師器甕。口径

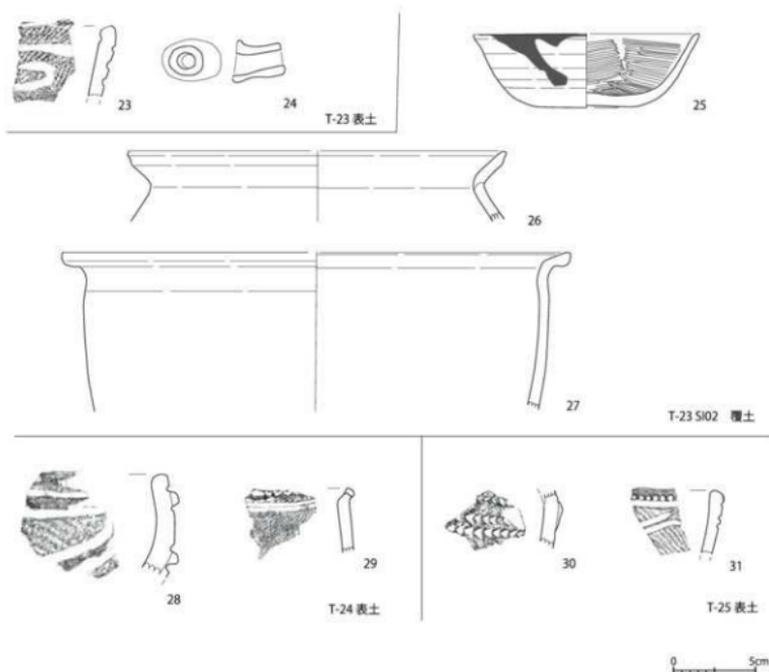


図 37 大増下根遺跡 (46) 出土遺物 2 (S=1/3)

23.2cm。27は須恵器甕。格子の叩き目痕が残る。28・29はT-24表土、30・31はT-25表土から出土した。いずれも縄文時代中期から晩期の幅広い遺物が散見される。開発地では縄文時代晩期を中心として、縄文時代中期から奈良・平安時代まで幅広い時代の遺物が確認された。縄文時代後期から晩期の土器に関しては、いずれも長石などを多量に含み、胎土が荒い印象である。

#### 47 大塚和内遺跡 (新発見)

①所在地 石岡市大塚 1838 番 ②調査面積 1900 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 4 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 谷仲俊雄、竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 8ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文時代の炉跡 (SL01) を T-6 で確認した。地表から 0.5m 程で焼礫や縄文時代前期の土器を確認したことから炉跡と判断した。遺構確認面までの深さは 0.4m。この結果を受け、令和 3 年 11 月 8 日付で「大塚和内遺跡」として「遺跡発見の通知」を茨城県教育委員会に提出した。⑦遺物 1～4 はいずれも T-6 の SL01 で確認された縄文土器である。1 は前期前葉の花積下層式である。胎土に繊維を多く含み、口縁部と胴上部は 2 条の隆体が回り、キザミが施される。その間には燃糸側面圧痕による渦巻文、竹管による円形刺突などが施される。胴部にはループ文である。外底面にまで縄文が施されている。2 は花積下層～関山 I 式。ループ文と羽状縄文が施される胴部である。3・4 は、花積下層式～関山 I 式か。

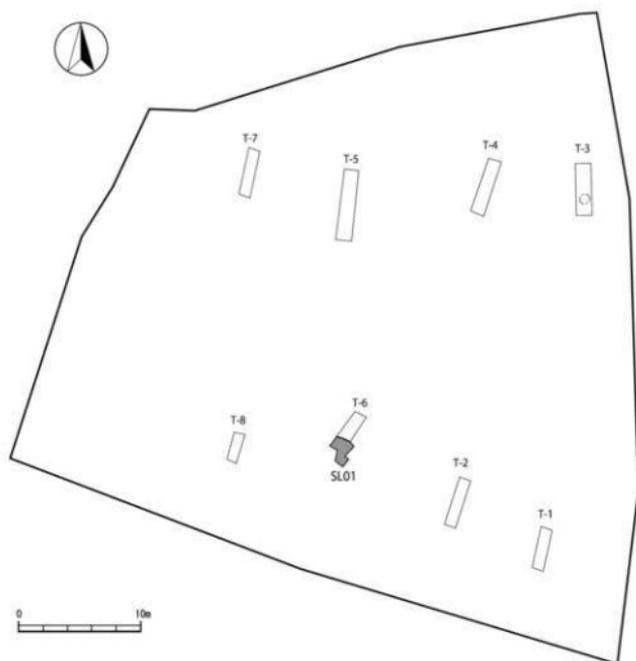


図 38 大塚和内遺跡 全体図 (S=1/400)



写真 27 大塚和内遺跡 T-6 SL01 (北から)

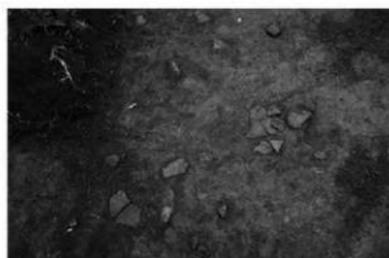


写真 28 大塚和内遺跡 T-6 SL01 遺物出土状況 (北西から)

3は2条の隆線をめぐらし竹管による円形刺突が施される。4は、縄文が外底面に施されている。開発地では花積下層式を中心に短期間におさまる遺物が確認された。



図 39 大塚和内遺跡 出土遺物 (S=1/3)

#### 48 大増下根遺跡

①所在地 石岡市大増 604 番 ②調査面積 2332 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 8 日、10 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 25 ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文時代の竪穴建物跡 1 棟 (SI02)、奈良・平安時代の竪穴建物跡 1 棟 (SI01)、縄文時代の可能性のある土坑 3 基 (SK01～SK03)、縄文時代及び奈良・平安時代の遺物を含む遺物包含層が確認された。遺構確認面までの深さは、0.4～0.6m。SI01 は T-10 で確認した。攪乱により遺構範囲は不明だが、遺構検出面から 0.15m で貼床が検出され、土師器が出土したことから当該期の遺構とした。SI02 は T-25 で確認した。床面までの深さは 0.2m。円形で、縄文土器が床面まで検出される。SK01・SK02 はそれぞれ T-1・T-11 で確認した。いずれも円形で縄文時代の遺物を含む。SK03 は T-24 で確認した。円形または方形で地表から 70cm で赤色焼土を確認したことから遺構とした。また T-13・15 では、遺物包含層が確認されている。 ⑦遺物 1～3 は T-1 の SK01 覆土で確認された縄文土器。1・2 は大洞 C<sub>1</sub> 式。2 は赤彩がやや付着する。3 は土偶の足か。晩期に該当すると思われる。4・5 は T-3・T-7 の表土で確認された。4 は時期不明の土製品。中央部にも孔の跡が残されており、中心部を中心に複数の孔が空いていたと思われる。5 は、後期後半から晩期。6～10 は T-10 で確認された。6・7 は表土、8～10 は SI01 の覆土で出土した縄文土器。8 は後期

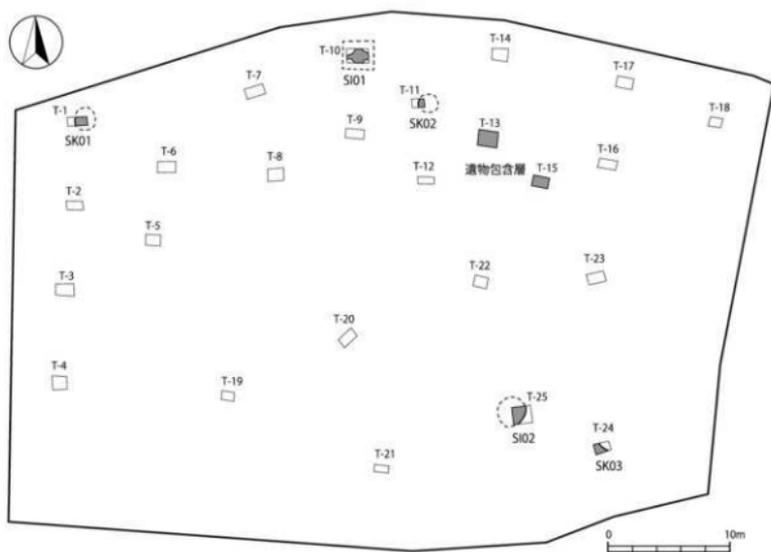


図 40 大増下根遺跡 (48) 全体図 (S=1/400)



写真 29 大増下根遺跡 T-10 SI01 (西から)

写真 30 大増下根遺跡 T-25 SI02 (西から)

写真 31 大増下根遺跡 T-13 遺物包含層 (西から)

写真 29 左上、写真 30 右上、写真 31 左下

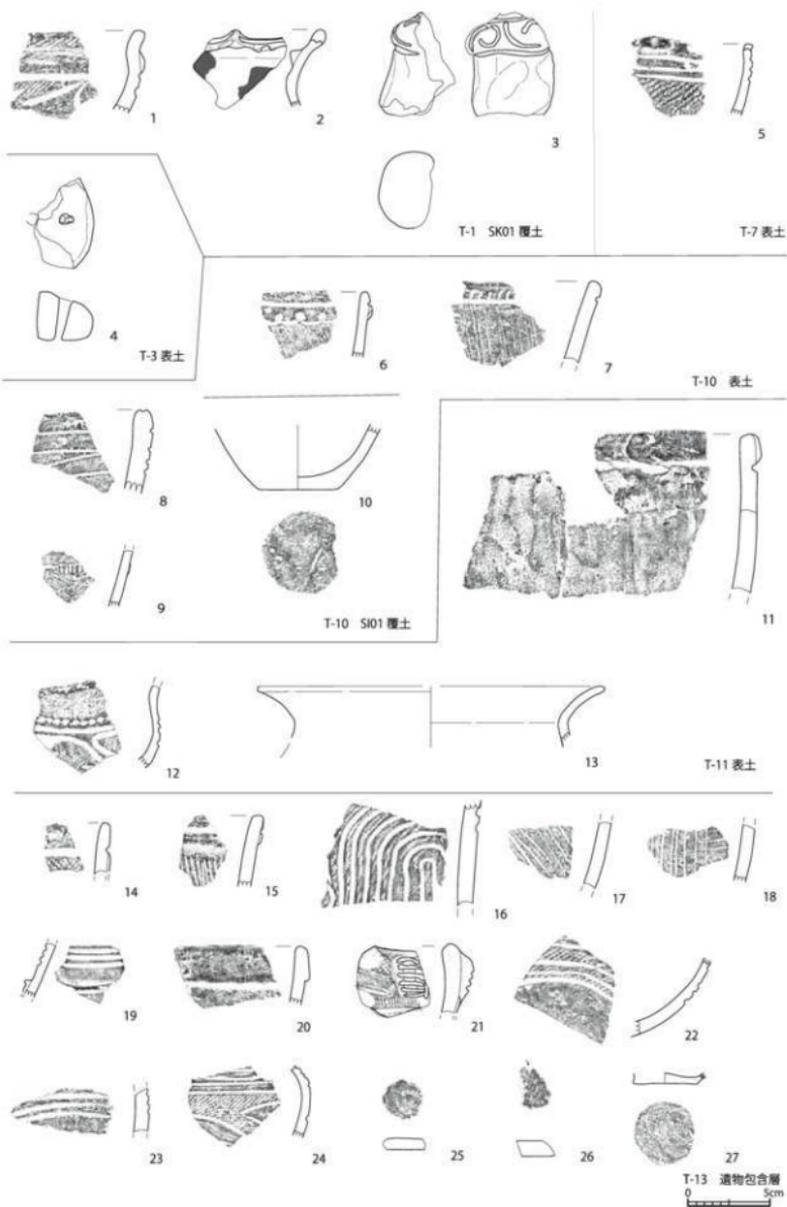


圖 41 大増下根遺跡 (48) 出土遺物 1 (S=1/3)

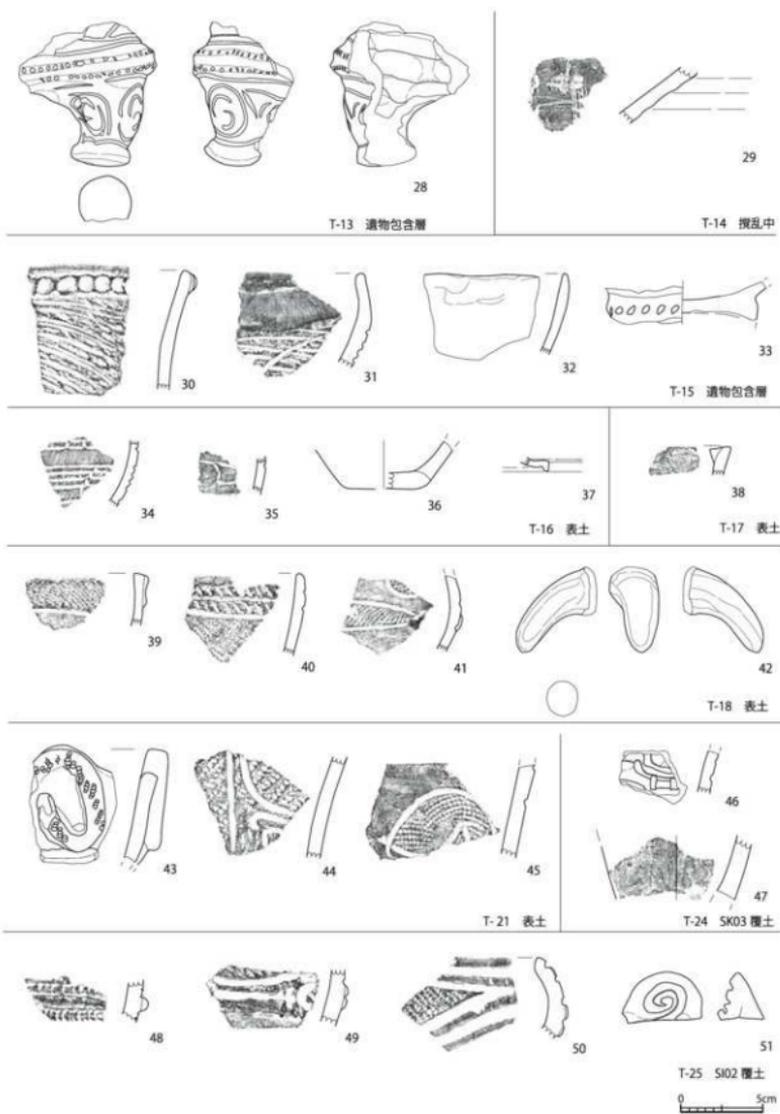


図 41 大増下根遺跡 (48) 出土遺物 2 (S=1/3)

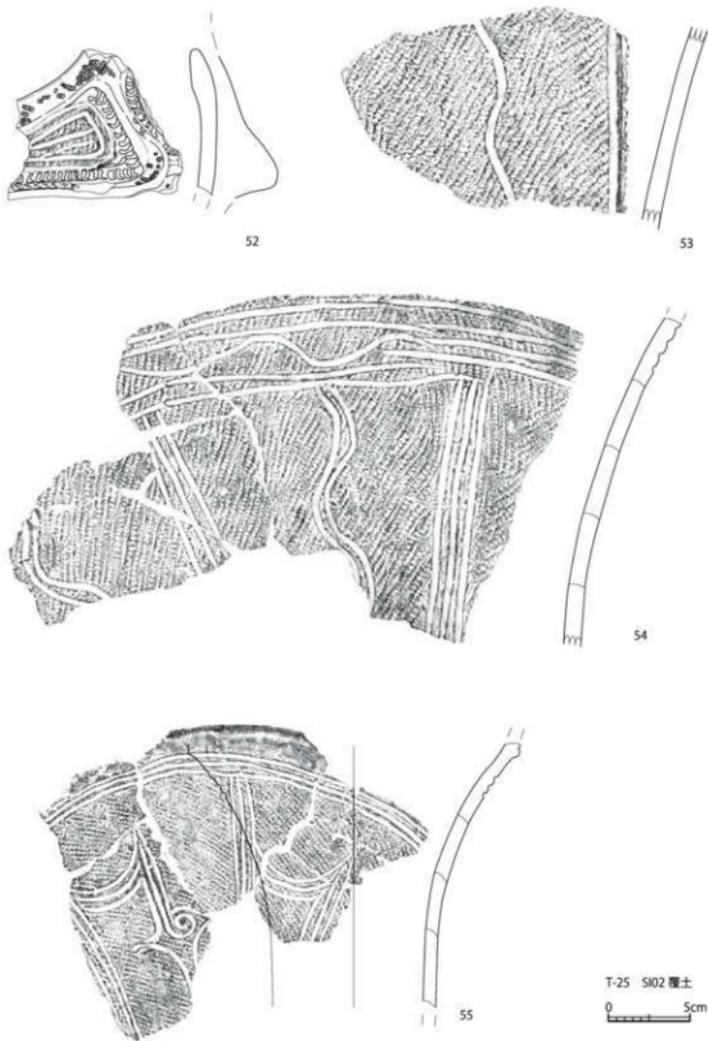


圖 42 大增下根遺跡 (48) 出土遺物 3 (S=1/3)

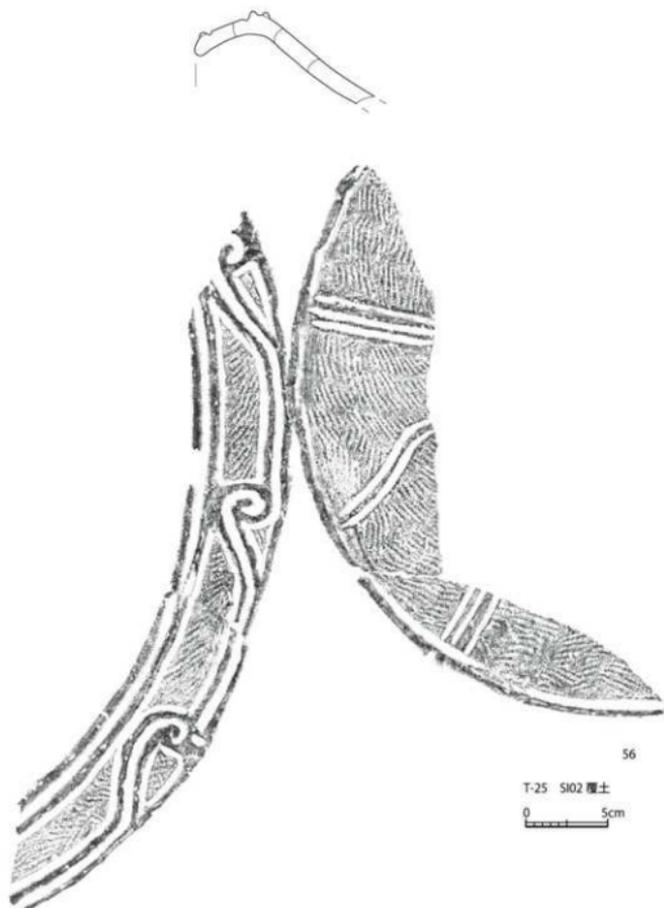


図43 大増下根遺跡(48) 出土遺物4 (S=1/3)

か。土器の内面にもI条の沈線が横走る。9は安行式。豚鼻状の瘤が付される。10は時期不明の底部である。11～13はT-11の表土から確認した縄文土器。11は安行3式。無文土器で折返し口縁。北関東系土器と思われる。12は後期から晩期か。13は土師器甕。14～28はT-13の遺物包含層中から出土した土器・土製品。14・15は加曾利E式。16～18は壺之内式。19は加曾利B1式。20は加曾利B3式。11の土器と似る。21～24は後期後半から晩期に該当する。22は浅鉢か。25・26は土製円盤。用途は不明である。27は土師器底部。28は遮光器土偶の脚部と思われる。29はT-14攪乱中から出土した。中世から近世の陶器と思われる。30～33はT-15の遺物包含層中から出土した縄文土器。30は加曾利B2式。口縁部に指頭圧痕を施す粘土紐を巡らされている。31・32も後期後半の土器と考えられる。31は鉢である。33は刺突が施された時期不明底辺部。台付土器の底部にな

ると思われる。34～37はT-16の表土で出土した。34・35は縄文時代後期。36は縄文時代時期不明底部。37は須恵器蓋。38はT-17の表土で出土した縄文時代時期不明の口縁部である。39～42はT-18の表土で出土した。39～41は後期～晩期の縄文土器。42は土偶の手部と思われる土製品。43～45はT-21の表土から確認した縄文土器。43・44は中期、45は後期後半である。46・47はT-24のSK03から出土した縄文時代後期土器。46は沈線間に円形の刺突を施している。47は底辺部である。48～はT-25のSI02覆土で出土した。48は阿玉台式。隆線脇に単位不明の押引文が施される。49・50は加曾利E2式。いずれも隆線間はRL単節縄文を転がす。51は把手。設置面に縄文が施されており、設置の際に縄文を転がしている可能性がある。52は阿玉台Ⅱ式。隆線脇に工状押圧を行う。隆線上には縄文がまばらに転がされる。53～56は加曾利E2式。53・54はRL単節縄文の上に棒状工具による沈線が施される。55はLR単節縄文の上に沈線による文様が施され、県北・東北の影響をうけている。56は口縁部は隆線による渦巻文。胴部はRL単節縄文に棒状工具による沈線が施される。



図44 大塚和内遺跡 調査地点位置図 (S=1/3,000)

#### 49 大塚 (未周知)

①所在地 石岡市大塚1805番、1807番 ②調査面積 2935㎡ ③調査日 令和3年11月12日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.5～1.2m。

## 50 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡 2254 番 1 ②調査面積 324.25 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 16 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.25～0.3m。

## 51 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目 8625 番 1、同番 5、8627 番 1 ②調査面積 497 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 19 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.45～0.85m。

## 52 田崎遺跡

①所在地 石岡市茨城三丁目 14327 番 1 ②調査面積 1043.02 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 11 月 26 日 ④調査原因 集合住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 5ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3～0.7m。

## 53 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目 8644 番 1、同番 13 ②調査面積 355.32 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 12 月 6 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3～0.4m。

## 54 北府中（未周知）

①所在地 石岡市北府中二丁目 12291 番 4、同番 5 ②調査面積 2602 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 12 月 10 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 10ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2～0.4m。

## 55 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子二丁目 2489 番の一部 ②調査面積 308.68 m<sup>2</sup> ③調査日 令和 3 年 12 月 14 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.2～0.4m。



写真 32 鹿の子遺跡（55）調査地点全景（北から）

## 56 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子二丁目 9632 番 2、同番 3 ②調査面積 832 ㎡ ③調査日 令和 3 年 12 月 21 日 ④調査原因 建売住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.3～0.7m。

## 57 関取遺跡

①所在地 石岡市三村 2664 番 1、同番 3、同番 4、同番 7 ②調査面積 4233 ㎡ ③調査日 令和 4 年 1 月 13 日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴 ⑥調査概要 開発区域内に 6ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは 0.4～0.5m。



図 45 三村周辺 調査地点位置図 (S=1/3,000)

## 58 木間塚遺跡

①所在地 石岡市杉並二丁目 12570 番 12 ②調査面積 312 ㎡ ③調査日 令和 4 年 1 月 14 日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に 8ヶ所の試掘トレンチを人力に

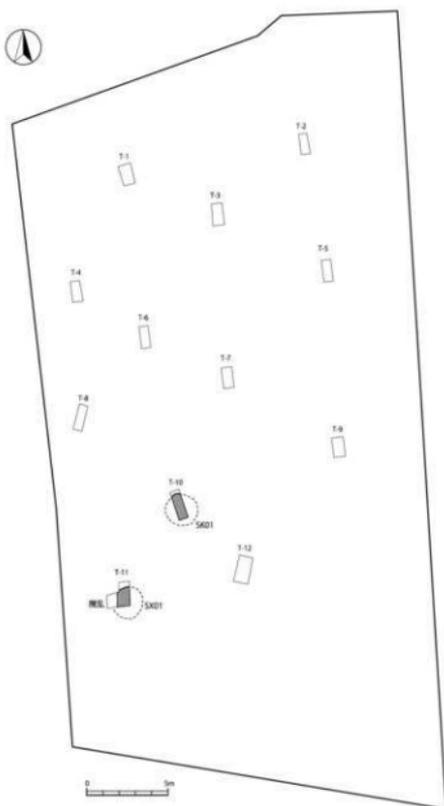


図 46 宮部遺跡 全体図 (S=1/300)

て設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.5m。

### 59 宮部遺跡

①所在地 石岡市若宮二丁目299番1、同番2  
 ②調査面積 904㎡ ③調査日 令和4年1月21日 ④調査原因 宅地造成 ⑤調査担当者 金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の土坑(SK01)1基と性格不明遺構(SX01)1基を確認した。遺構確認面までの深さは0.4～1.2m。SK01はT-10で確認した。円形で床面直上まで奈良・平安時代と考えられる土師器などが出土する。SX01はT-11で確認した。攪乱により一部広がりを確認できなかったが、円形の遺構に



写真 33 宮部遺跡 T-10 (北から)

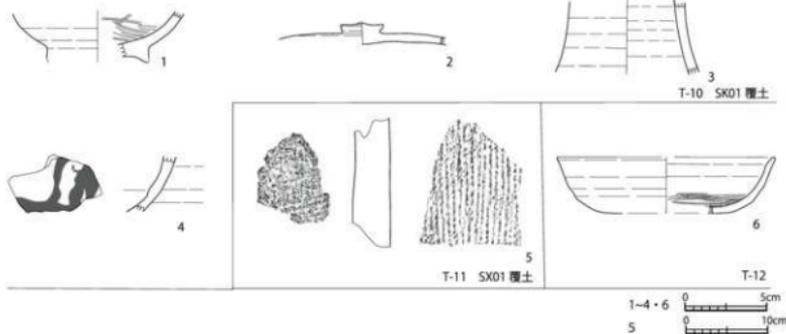


図 47 宮部遺跡 出土遺物 (S=1/3・1/6)

なると思われる。SK01と同様に床面直上まで奈良・平安時代と考えられる土師器が出土する。⑦遺物 1～4はT-10のSK01覆土から出土した。1は土師器底部。台付土器。2は須恵器蓋。3は灰軸陶器。4は緑軸陶器。5はT-11のSX01覆土から出土した平瓦である。6はT-12で出土した内黒の土師器底部である。

## 60 北府中（未周知）

①所在地 石岡市北府中二丁目12337番1、12338番 ②調査面積 4922㎡ ③調査日 令和4年1月25日  
④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に12ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.15～0.8m。



写真34 北府中（未周知）調査風景（南から）



写真35 北府中（未周知）調査地点全景（北西から）

## 61 大塚遺跡

①所在地 石岡市石岡13997番30 ②調査面積 226.05㎡ ③調査日 令和4年1月27日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.6m。

## 62 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡2998番 ②調査面積 673㎡ ③調査日 令和4年2月2日 ④調査原因 福祉施設建設 ⑤調査担当者 金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に11ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.45m。



写真36 大塚遺跡 調査地点全景（南から）



写真37 東ノ辻遺跡 調査地点全景（北西から）

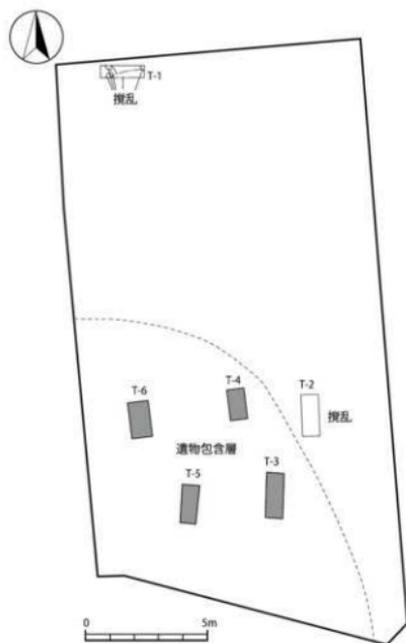


図 48 税所屋敷遺跡 全体図 (S=1/200)



写真 38 税所屋敷遺跡遺跡 T-3 (北から)



写真 39 税所屋敷遺跡 T-4 (北から)

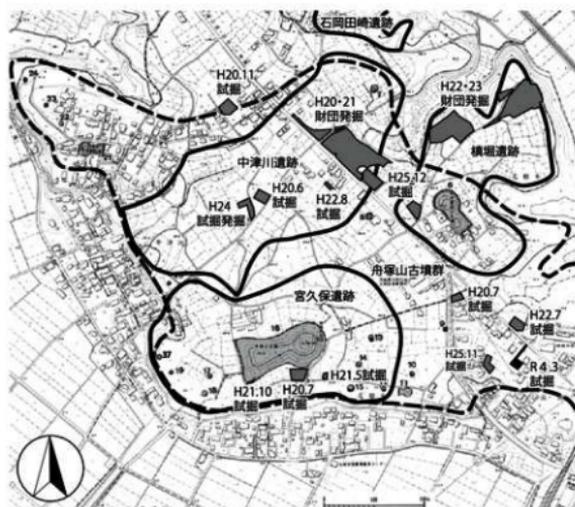


図 49 舟塚山古墳群  
ほか 調査地点位置図  
(S=1/10,000)

### 63 三村 (未周知)

①所在地 石岡市三村2729番1 ②調査面積 5060㎡ ③調査日 令和4年2月3日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.25～0.5m。

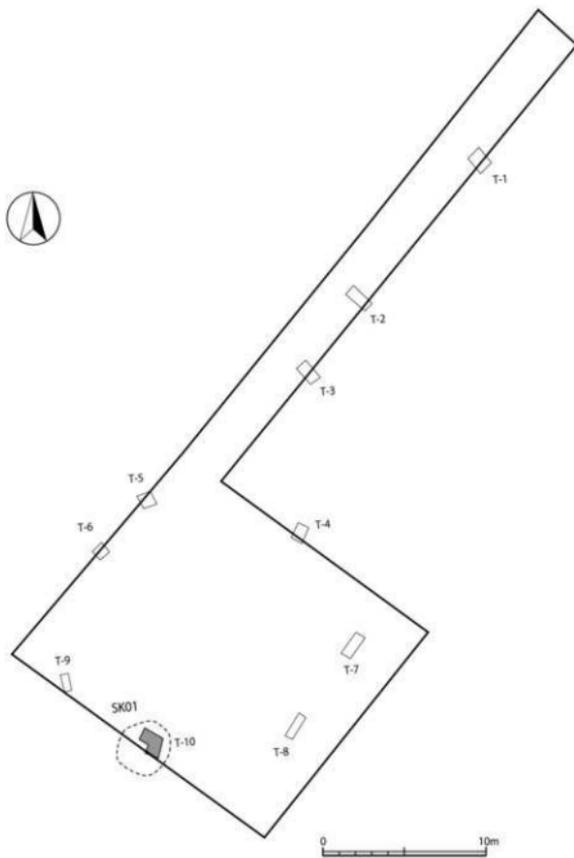
### 64 鹿の子遺跡

①所在地 石岡市鹿の子二丁目2692番4 ②調査面積 497㎡ ③調査日 令和4年2月9日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.5～0.9m。

### 65 税所屋敷遺跡

①所在地 石岡市茨城一丁目5391番7 ②調査面積 286㎡ ③調査日 令和4年2月25日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に6ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の南側で縄文時代の遺物包含層を確認した。遺構確認面までの深さは0.5m。遺物包含層はT-3～6で確認した。旧表土では奈良・平安時代の土師器や須恵器、その下層の遺物包含層と思われる黒褐色土層には縄文土器を多く含む。(遺構図は前頁)

⑦遺物 令和4年度に発掘調査をおこなっているため、その成果と共に別稿で掲載する。



### 66 舟塚山古墳群

①所在地 石岡市高浜2番1、29番1、31番1の各一部 ②調査面積 398.59㎡ ③調査日 令和4年3月8日

図50 舟塚山古墳群 全体図 (S=1/300)

④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に10ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、古墳時代の土坑1基(SK01)を確認した。SK01はT-10で確認した。旧表土の下層で厚さ20cm程度の明褐色土層を確認した。この層では赤色焼土・炭化物を含み、古墳時代の土師器がまぎらって出土した。その下層のローム層に明確な硬化はみられずSK01とした。⑦遺物 1はT-10のSK01から古墳時代の土師器壺が口縁部が斜め下を向いて出土した。器高は最大34cm。口径14cm。底径7.3cm。

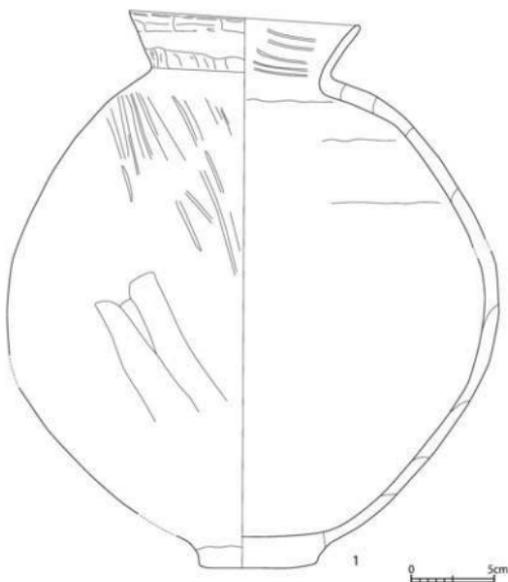


図51 舟塚山古墳群 出土遺物 (S=1/3)

#### 67 柴間 (未周知)

①所在地 石岡市柴間 321番1、同番2、322番、323番、324番2、同番3、同番4、同番5、330番、山崎4番 ②

調査面積 10031.01㎡ ③調査日 令和4年3月29日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 竹内智晴、金子悠人 ⑥調査概要 開発区域内に5ヶ所の試掘トレンチを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは0.3～0.5m。

#### 注

(1) 「財司」の墨書土器と国分尼寺の関係については上高津ふるさと歴史の広場の堀部氏よりご教授いただいた。記して謝意を申し上げます。

### Ⅲ 工事立会い（令和2年度）

#### 1 中島遺跡（第3次）

①所在地 石岡市染谷字中島 1974 番 ②調査面積 20 m<sup>2</sup> ③調査日 令和3年3月25～30日 ④調査原因 畜場増築 ⑤調査担当者 小杉山大輔・谷仲俊雄・竹内智晴 ⑥調査概要 中島遺跡は石岡市染谷の南方に張り出した舌状台地上に存在する。石岡地方畜場建設に伴い平成21年3月から6月に試掘調査を、平成22年12月から平成23年4月に発掘調査を実施している（第1次、勾玉工房 Mogi 2011）。その後、畜場増築に伴い平成31年4月に試掘調査を、令和元年10月から11月に発掘調査を実施している（第2次、勾玉工房 Mogi 2020）。畜場増築部分で遺構に影響のある範囲のうち、発掘調査を実施できなかった区域約20 m<sup>2</sup>について、工事立会いを行った。確認した遺構は竪穴建物跡2棟、土坑1基である。遺構名は第2次調査からの連番とした。

#### 竪穴建物跡 SI04

第2次調査のSI04。規模・構造 遺構の大半は調査区域外となり北壁と西壁の一部を検出した。東西幅1.8m以上、南北幅4m以上の方形。壁の高さは35cm。壁溝 幅17～30cm、深さ6cmの壁溝が全体に確認された。ピット 3基確認された。カマド 検出範囲内では確認されない。出土遺物 覆土から古墳時代の土師器高杯（1）のほか、不明土製品（3）や縄文土器（4・5）、石器（6）などが、覆土上層から土師器杯（2）が出土している。所見 遺構に伴う遺物は少ないが、形状や覆土の状況を合わせると、古墳時代中期から後期か。

#### 竪穴建物跡 SI05

重複関係（古）竪穴建物跡 SI05→土坑SK08（新）規模・構造 遺構の大半は第1次調査区となり、南壁の一部を検出した。第1次調査区では検出されていないが、覆土が浅く検出できなかったためと考えられ、本来は続いていた可能性が高い。壁の高さは20cm。壁溝 検出範囲内では確認されない。出土遺物 覆

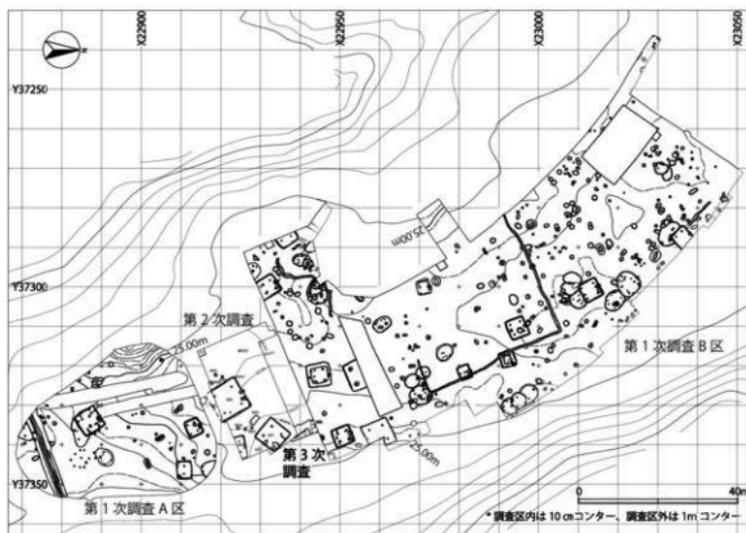


図 52 中島遺跡 全体図 (S=1/1,250)

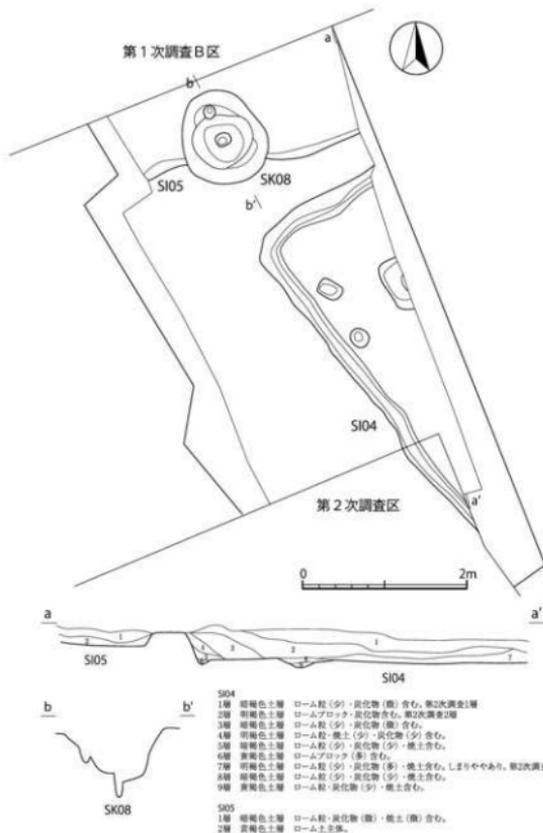


図53 中島遺跡(第3次)全体図(S=1/60)

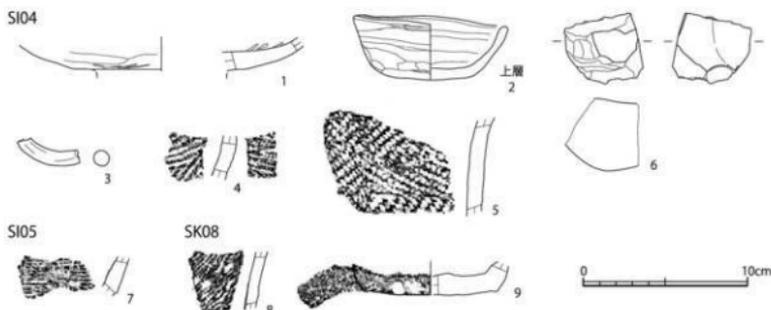


図54 中島遺跡(第3次)出土物(S=1/3)

土より縄文時代前期の土器(7)が出土している。所見出土遺物が少ないが、覆土の状況や重複関係から、縄文時代と考えられる。

#### 土坑 SK08

重複関係 (古)堅穴建物跡 SI05 → 土坑 SK08 (新) 規模・構造 東西1m、南北1.2mの円形。深さ65cm。底面に径18cm、深さ16～28cmのピットを有する。出土遺物 底面のピットから縄文時代前期の土器(8・9)が出土している。所見 出土遺物から縄文時代前期と考えられる。

#### 引用文献

勾玉工房 Mogi 2011『中島遺跡－石岡地方斎場建設に伴う発掘調査－』石岡市教育委員会

勾玉工房 Mogi 2020『中島遺跡(第2次)－石岡地方斎場増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』石岡市教育委員会



写真 40

中島遺跡 (第3次) (北から)



写真 41 遺構確認状況 (北から)

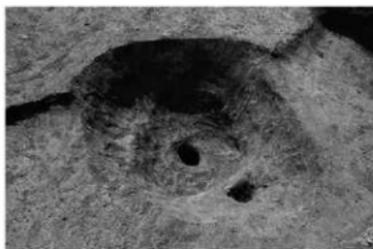


写真 42 SK08 (北東から)



写真 43 SI04 (北から)



写真 44 SI04 遺物 2 出土状況 (南東から)

## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさほうこくしよ
書名	市内遺跡調査報告書
副書名	
巻次	第14集
編集者名	金子 悠人
著者名	金子 悠人 谷仲 俊雄
編集機関	石岡市教育委員会
所在地	〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680番地1 TEL 0299-43-1111
発行年月日	2023（令和5）年3月31日

---

### 市内遺跡調査報告書

#### 第14集

---

2023（令和5）年3月31日発行

編集 石岡市教育委員会 文化振興課

発行 石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680番地1

TEL 0299-43-1111(代)

FAX 0299-43-1117

印刷 共和印刷株式会社

〒315-0001 茨城県石岡市石岡2747-68

---